



保護製産論

821



414
A 1019



譯保護製產論序

泰西學士論國家之經濟者有二派焉曰自由交易
曰保護製產糴外國之製產其稅唯視政府公費之
多寡課之而不參庇保內國製產之意內外一視彼
我同顧內國製產之盛衰興廢一任之自然而不復
助長是自由交易家之說也外國之物貨賦之重稅
使其價貴而不至以抑壓內國製產以使內國製產
愈興而愈盛以至與外國頡頏為期是保護製產家
之論也余也淺學寡識而無定見雖讀西國學士所
著經濟論而僅窺其門牆而已至欲知其孰益於國

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

孰損於國則每有迷津望洋之歎矣况曩時所讀之書一係自由交易之撰述其駁保護製產不遺餘力遂視保護製產之說如不復足取乎近來偶讀顯理格禮傳見其演保護製產說於聯邦議院而有所大感焉乃竊歎曰噫淺學而無定見徒偏于一隅其弊一至于此哉今又得此書讀之而益信保護製產之不可以已遂以起譯稿曰國之製產未盛者舍保護製產而復何取而又以謂凡勢有常變之別而常者變之所由生而亦其所歸也故勢雖有常變之別而推其所歸則未嘗不一也夫自由交易也保護製產

也自外見之雖各有異然求諸學士之胸中則亦皆出於欲使國家富裕而人之得當者至其志則彼此未始見其異者矣惟其視國之實況不同察勢之常變不一因以致外見之異耳故余今欲聊陳鄙見以辨其異同之所以分矣蓋自由交易也者就勢之常者而論之者也保護製產也者依勢之變者而論之者也自由交易家之說曰交易者以我勞易彼勞之事也而未嘗不各出於其意所適故能互得其益也然而今抑揚之以使各不得隨其所欲矣其悖交易之理而破彼我之益也亦甚矣夫人各有自由之權

莫有差等交易之際亦隨其所欲而以謀其利他人固不得為之抑揚是理之常者也人生同等彼我雖有製產之異而理當相敵而不相下頡頏而不相讓是亦其常者也故彼我雖異其長短而我長足以敵彼長互有利而無害則交易之際固當自由是以常處常者而不能間然矣雖然或由於人民之勤惰或由於開拓之遲速或由於政治之美惡國運不能無隆替製產不能無盛衰是必然之勢而有未必可以常而推者焉夫國運不隆製產不盛對外國無所長我之所欲彼無不有者而彼之所欲我有不有者則

我常為彼所制不竦知者而後知也請試舉一例明之今夫甲邑之民饒於貨財而巧於技工凡百物貨無所不產無所不製而以其所長與乙邑之民多遊手徒食乏於貨財而拙於技工者為交易則乙邑之民其景狀果如何也甲邑之所製所產無一不適乙邑所欲而其價又廉矣乙邑之民苟勵職勤業者以其製產易甲邑之製產可以得其益矣雖然其所以得益者將為其邑之所以損也夫得益愈多則甲邑製產之入於乙邑者愈多而乙邑之製產為其所抑壓破產失業者愈多矣故其所以得益者乃所以增

其邑之遊手徒食也使遊手徒食之輩愈多而曰富其邑其誰信之是以國家之景况如乙邑則不可不處之以保護製產之法是乃以適應變之道也及其技工漸巧製產漸盛而得與外國相敵則復其常可處之以自由交易矣方今我邦之勢果如甲邑耶將如乙邑耶不須歎々而辨也然而議者或不察國之實况不詳勢之常變而謾說自由交易余竊不取焉嗚呼國家致貧富強弱之機間不容髮亦在於自由保護之取舍得宜與否而已矣是余之所以有此編之譯也因陳其大畧寘諸卷首

保護製產論

第一篇

勞作論

勞作トハカヲ勞シテ必需ノ物嗜好ノ品ヲ製出スルノ謂ニシテ吾人ノ利害ニ関スル所實ニ至切至要ナルモノナリ故ニ凡ソ人類ノ在ル處此事有ラサルハ莫シ夫レ覆載ノ間萬象森羅ニ天命優渥物トシテ資リ用フ可ラザルナシ而シテ往古ニ在テハ人民稀少ニシテ其嗜好スル所モ亦少シ故ニ地ノ自然ニ産スル所ノ物ヲ以テ其嗜好ヲ饜シムルヲ得タリ現今ト虽凡熱帶地

方ノ野蕃ハ猶常久ノ職業ヲ作サス或ハ人肉ヲ
食ヒ或ハ嬰兒ヲ屠リ或ハ掠奪ヲ事トシ以テ僅
ニ飢餓ヲ免ル者アリ其為ス所ヲ觀ルニ各異
アリト虽凡皆勞作ヲ為サレハ則以テ其生命
ヲ保ツト能ハズ嗚呼勞作ハ實ニ生死ノ関スル
所興廢ノ係ル所ニシテ亦以テ上帝ノ人ヲ遇ス
ルニ嚴肅ナルヲ見ル可シ勞作ヲ為セバ則之ヲ
存シ勞作ヲ為サズレハ則之ヲ殺ス試ニ怠惰ニ
シテ且放蕩ナル人種ヲ看ヨ死没相繼キ漸ク衰
ヘテ終ニ跡ヲ地上ニ絶ツニ至ラサル者ナク其

土地ハ勉勵ニシテ且節儉ナル者ノ有スル所ト
ナレリ是仁心アル者ノ深ク悲ム所ナリト虽凡
怠惰ニシテ浪費ニ唯眼前ノ小利ヲ之求メテ永
遠ノ謀ヲ為ガル者ハ常ニ死亡シ而シテ林莽ヲ
伐リ土池ヲ拓キテ之ニ種藝シ水ヲ引キテ之ヲ
肥沃シ其植物ヲシテ秀榮セシムル者ハ漸ク彼
怠惰ナル者ノ土地ヲ有スルニ至ルナリ故ニ縱
令諸物ヲ共有ニシ勉勵ノ人ヲシテ怠惰ノ者ヲ
養ハシムル凡亦惰者ノ死亡スルヤ必ス速ニシ
テ其土地終ニ勉者ノ專有スル所トナラサル莫

勞作ハ衣食住ヲ得ルニ始マルト虽氏其終ル所
ハ則チ窮ム可ラズ蓋シ人欲ハ之ヲ饜足スル資
財ト共ニ增長ス故ニ日用至切ノ衣食等ヲ辨シ
テ尚餘資アルハ或ハ屋舎ヲ羨ニシ或ハ家什
ヲ華ニシ或ハ珍玉ヲ欲スル等百ニシテ足ラズ
是外物ノ饜ク人心ヲ饜足セシムルナキ所以ニ
シテ亦造化ノ妙人ヲシテ愈得テ愈欲セシメ以
テ休止スルナカラシムルノニ試ニ看ヨ富有
ノ人ハ貧窮ノ人ニ比スレハ其欲スル所更ニ切

ニシテ千金ノ産アル者其身既ニ老テ將ニ地ニ
入ラントシ其貯蓄スル所將ニ遠キ親戚ノ手ニ
落ントスルヲ知ルト虽氏尚其産ヲ増殖セシ
テ務メテ肯テ止ガル者世ニ少シトセス貧吝ノ
人ノ如キハ自家無用ノ財ヲ得ント欲シテ遂ニ
身命ヲ危クスルニ至ルアリ實ニ糞財ヲ貯蓄ス
ル一念ハ死ニ至ルマテ人ノ忘ルルヲ知ハサル
所ナリ
詩人仁者僧徒ノ如キハ或ハ利ヲ求ルルヲ惡ム
虽氏然レモ地球上ニ於テ實利ノ起ルハ皆得

シテヲ欲スルニ由サル莫シ夫レ閣龍ノ如キハ
萬世ノ豪傑ナリ然レ凡其數國ニ奔走シ新地ヲ
發見スル資ヲ求ムルニ方リテ新地ノ世襲水師
提督ノ官ヲ得且其地所産ノ十分一ヲ美ケン
ヲ併セ乞ヘリ英傑ノ士慈仁ノ人ト虽凡唯他人
ノ為ニノミ勞シテ其報ヲ願ハサル者ハ則世ノ
稀ニ有ル所ニシテ彼群衆ニ至テハ則自家ノ利
ニ非レハ復筋骨ヲ勞スルヲ無シ蓋シ凡ソ人ノ
安逸ヲ甘ゼスニテ勞苦ヲ忍ブハ老年ニ至テ逸
樂ナラシテ欲シ且子女ヲシテ愈福祉ヲ得セ

シメンテヲ願フニ由ルナリ故ニ今若シ正經ノ
所得ヲ各人ニ保シ他人ノ犯スヲ禁スルノ法例
ヲ廢シ以テ人ヲシテ貧賤ヲ貯蓄スル念ヲ絶
シメバ基督教ヲ奉スル國ト虽凡人民忽テ愚トナ
リ貧トナリ全然野蠻ノ域ニ陥ルヲ將ニ彈指ノ
間ニ在ントス
是ヲ以テ人ノ職ヲ勉メ業ヲ勵ムハ多ク其私ノ
常マシテ欲スルニ由ルナリ然リト虽凡其勢
ルモノニシテ亦道德ノ趣旨ニ稱ヘリ請フ詳ニ

世上ヲ察セヨ其惡漢罪犯タル者ハ必ス皆青年
寺急情無頼ナリシニ因レリ今爰ニ少年ノ人
百名有ラレニ其中六十名ハ勉勵不休ノ作業人
トナリ其餘ハ急情ニ陥ルル者ハ知ル可シ其六十
名ハ品行ヲ慎ミ有益ノ事ヲ為シ以テ世ノ標準
トモナル可キ人トナリ其四十名ハ或ハ罪ヲ犯
シ或ハ酒ヲ使ヒ不善ヲ行ヒ廉耻ヲ破ル人ト為
ルトナリ世間此徒ノ多キ常ニ定位ナク或ハ乞丐
トナリ或ハ竊盜トナル而シテ其窮厄ニ至ル原
ヲ推セハ則少クシテ作業ヲ習ハス長シテ事ト

スル所ナキニ由レリ吁嗟情民ノ國家ニ在テ贊
財ヲ糜スルハ猶水蛭ノ人身ニ在テ膏血ヲ吸フ
ガ如シ之ヲ牢舎ニ養フニ非レバ則之ヲ貧院ニ
救ハサルヲ得ス而シテ其死スルヤ亦國費ヲ以
テ之ヲ埋葬セサル可ラス是職トシテ無智不良
ノ親ノ其兒ヲシテ作業ヲ習ハシメザルニ由レ
リ而シテ彼徒窮困スルニ及テハ則將ニ言ハシ
トス我甘ジテ何等ノ事ヲモ為ス可シト然レル
彼徒既ニ有用ノ事ヲ知ラス豈之ヲ傭フ者アラ
シヤ

往昔ニ在テハ兒童ニ教フルニ有用ニ作業ヲ以
テ之ヲシテ正經ノ活計ヲ立ルヲ得セシム
ルヲ以テ其親ノ法教的及ニ道德上ノ義務ナリ
ト令シタル國アリテ其兒或ハ鉅萬ノ資財ヲ襲
ヒ或ハ國王ノ位ヲ繼クノ人タラシトスルニ未
ダ口ヲ此ニ藉テ農夫ノ如ク生計ヲ求ムル方ヲ
知ラザルヲ得ザリキ母耳及ニ撒刺生人ノ如
キ即是ナリ是等ノ人回教ヲ奉ニ歐羅巴ヲ襲ヒ
亞細亞ヲ攻メ亞弗利加ヲ侵ニ其至ル所既ニ邊
隅ニ止ラザリシト虽ニ能ク其兒子ヲシテ作業

ヲ習ヒ正經ノ職業ニ就カシメシナリ之ニ及シ
テ土耳其ノ人亞刺伯亞ノ民ノ如キハサラテン
及ヒハロルアルラシドノ滅亡ノ後其祖先ノ業
ヲ繼クト虽ニ才智ニ乏シク終ニ衰弱ニ至レリ
希臘羅馬ノ如キモ其衰頽シテ終ニ振興セザリ
シハ亦勞作ヲ賤ニ專ラ之ヲ奴隸ノ手ニ委シテ
顧ミサリシニ由レリ現今歐洲盛昌ナリト虽ニ
溯テ其始ヲ尋ヌレバ則製作ノ業漸ク長シ漸ク
進ニ奴隸ノ習ヲ變シテ野蠻ノ風ヲ改メシヲ以
テナリ故ニ凡ソ兒童ヲシテ皆生利有用ノ業ニ

熟達セシム可シト云フ要旨ヲ未タ擴充セサル
間ハ文化ノ進ミタル國ト虽氏壯丁ヲシテ貧窮
ナラガラシメ以テ汚行醜態十カラシメ艱苦辛
酸ヲ免レシム可ラス故ニ乞丐盜賊及貧困ノ
男女十カラシメント欲セハ先ツ兒童ヲシテ柔
懦ニ長セサラシム可シ若シ然ラズンハ其相背
馳スル猶薪ヲ投シテ火ノ滅セントテ鰥ヲガ如
クナラン
兒童ヲシテ有益ノ勞作ニ捷便快利ナラシム可
シト云フハ之ヲシテ專ラ該勞作ヲ勉メシメン

ガ為ニ非ズ固ヨリ兒童ヲシテ其欲スル所ニ從
ヒ或ハ心智ニ涉ル業ヲ勤メ或ハ技術ニ係ル職
ヲ行ハシム可シト虽氏若シ此ニ望ヲ失スルキ
ハ則彼ニ從事スルト得セシメンカ為ナリ例
ハハ兒子醫師タラント欲セハ則之ヲ許シ狀師
タラント欲セハ則亦之ヲ聽シ其他教士タリ詩
人タラントスルモ亦其欲スル所ノマニシ固
ヨリ之ヲ牽制スルヲ無ル可シ然ルト虽氏其本
業本職亦盛衰ナキ能ハサルヲ以テ其本業本職
ニ於テ失望スルハ別ニ當ム所アラシメサル

可ラス果シテ能ク兒童ヲ教フル是ノ如クナレ
ハ則其本業本職ヲ失フト虽氏亦飢渴ニ迫ルノ
患ナシ故ニ其正直ニシテ且自重スルヲ保ス
可シ然リ而シテ此事ヲ成就センニハ有益ノ勞
作ヲ盛ニシテ之ヲ習ハザル者ナカラシムルニ
非レハ則能クヌ可ラサルナリ
夫レ世上損害多シト虽氏而シテ人ノ怠惰無能
ヨリ招ク所ノ損害ヲ以テ至大トス彼霜雪風雨
火災地震洪水等ノ害ノ如キハ之ニ比スレハ則
未ダ数ルニ足ラス我國ノ民事ヲ事トスル所

ナリ常ニ手ヲ遊ハシムル者大抵十分ノ一ヲ以
テ算ス可シ而シテ是等ノ徒果シテ職業無キニ
非ス蓋シ為スル能ハサルナリ試ニ右數ノ中強
壯^ナル者一百万人アリト看做シ業ニ就^クルハ其日
日ノ所得一弗トスルキハ其無能ナルニ因テ我
ノ損スル所毎年三億弗ニ下ラサル可シ而シテ
吾レ乃チ實際ニ就テ推測スルニ其損額五億弗
ヨリ少ナカラザル可シ蓋シ此輩工作ヲ習ヒシ
モノナランニハ毎日二弗乃至五弗ヲ貯蓄スル
一ヲ得可キヲ以テナリ嘗テ一少年アリ法律學

ヲ修メント欲シ之ヲダニアル、空ブストルニ河
ヘリ空ブストル曰ク未ダ可ナリトセス更ニ貴
グ可キ事業アリテ其多キヲ数ルニ違アラズト
其意蓋シ實利ヲ起ス作業ヲ勸メシナリ、且夫レ
男女ヲ論セス苟モ或ハ長スル所アリ或ハ熟ス
ル所アレハ職業ノ絶ルヲ決シテ之無シ試ニ看
ヨ本府紐育ヲ指ス中婦人ノ常ニ針工ヲ為シ食料ノ
外更ニ毎日五十セント以上ヲ得ル者大約十萬
人アリ今此婦人ヲシテ縫裁ニ熟セシメハ其數
ヲ倍スルモ亦富家ニ傭ハレ食料宿賃ヲ除キ尚ホ

毎日一弗以上ヲ得可シ或ハ男子ニシテ金匠磨
工車工等ヲ以テ本職トスルモ又能ク村木ヲ伐
リ垣ヲ作り圃ヲ理ムル等ノ事ヲ為サハ必ス業
ヲ失フノ患ナクシテ常ニ相当ノ賃錢ヲ得可シ
彼男子ニシテ唯記簿ノ法ヲ知り婦人ニシテ特
リ音樂ヲ能クスルノミニシテ他人事業ヲ知ラ
ザル者ノ如キハ心ナラスモ遊手消光ニ終ニ或
ハ乞丐ヲラサルヲ保ツ可ラサルナリ故ニ彼
有用ノ人トナラスシテ自ラ勉メント欲スル氏
就ク可キノ職業ヲ得サル者ハ則少年ノ時或ハ

田圃或ハ肆舗ニ於テ日々有益ノ勞作ヲ習ハザ
ルニ由テ然ル者タルヲ復タ疑テ容ル可ラザル
ナリ

右ノ如ク國中ノ人民男女ヲ論ゼズ各職業ニ就
カシメンニハ先ツ職業ノ種類ヲ多クスルニ非
レバ則能クス可ラズ試ニ看ヨ一國一州ノ民其
利益ヲ得ル所僅ニ一方ニ偏スル者ハ通例貧ナ
ラザルナシ是其職業ヲ擇フノ宜キヲ得ザルニ
由ルニ非ズ蓋シ人ニ老少男女強弱ノ別アリ而
シテ其就カント欲スル所ノ職業僅ニ一種ニシ

テ異類ナク其差別一ナラザル所ノ人力ニ適セ
ザルニ由ルノミ我國ノ或ハ專ラ伐木ヲ業トシ
或ハ特リ捕魚ヲ業トスル地方ニ於テハ窮民ノ
比例殊ニ多シ彼專ラ棉花ヲ植養シ或ハ一金
坑ニ従事スル地方モ亦然ラザルヲ莫シ故ニ職
業ノ類一ナラスニテ而シテ後人民ヲシテ懶惰
ニ慣レザラシムルヲ得可シ人民既ニ懶惰ニ
慣レザレバ則國ヲシテ富饒ナラザラシメント
欲スルモ亦得可ラザルナリ今ヲ距ルヲ六七十年
メイシ州極メテ貧ニシテニユウイングラフ

トニ於テハ人ノ貧ヲ語レバ必スメイシノ民ヲ
称スルニ至レリ而シテ其然ル所以ヲ推セバ則
其地方ノ人民特ニ伐木ヲ以テ業トセシニ由レ
リ魯西亞ノ地方大ニ穀物ヲ生ズル処アリト虽
モ其人民貧ニシテ且化セザル者其理蓋シ亦異
ナルヲナシ今マツサテセツトニ行ハル、所ノ
職業ハ每一人ノ由テ得ル所ノ利益ニ就テ之ヲ
論ズレバ其北カロライナノ右ニ出ル、ト甚ダ遠
シインディヤナノ如キモ亦猶之ニ勝ル、ト得ズ
是等ノ如キハ製作ノ業擴張セハ則復此異同ア

ル、トナル可シ蓋シマツサテセツトニ於テハ
婦人小兒ト虽モ日々業ヲ勵ミテ以テ實益ニ加
ル者已ニ其全數ノ半ニ至レリ而シテ北カロラ
イナインディヤナニ於テハ則其職業婦人小兒ニ
適スル者ナク十五歳以上ノ男子ニ非レバ則營
業ヲ得可ラス是其貧富ヲ異ニスル所以ノ源ニ
シテ其源ヲ塞ガザレバ則彼此異同ナカラシム
ル、ト能ハザルナリ
凡ソ人ノ勞作ニ堪ルハ其始僅ニ衣食等ノ急ナ
ルニ由ルト虽モ嗜欲固ヨリ窮リナクシテ唯必

需ノ衣食等ヲ辨スルニ止ラサルナリ貪吝ナル
人ノ如キハ其勞苦スル所以其謀圖スル所以其
貯蓄スル所以一ニ自己ノ利ヲ營ミ自己ノ貨ヲ
殖セント欲スルニ在サルナシ然リト虽モ大厦
高館ノ如キ紅園綠圃ノ如キ書庫學校ノ如キ亦
或ハ吝者ノ遺言シテ施與シ或ハ吝者ノ賞財ヲ
以テ建設スル所少シトセス蓋シ我輩ノ先人ノ
遺ス所ニシテ我輩ノ資リテ以テ知識ヲ開キ文
化ヲ進メ禮儀ヲ補ヒ幸福ヲ増ス所ノ者一ニ先
人ノ少年ノ時ヨリ用ヲ節シ財ヲ蓄ヘ慮ヲ遠ク

セシニ由サル莫シ而シテ其在世ノ時ニ於テハ
或ハ私利ヲ營テ人ヲ顧ミサルヲ以テ譏リシ者
少カラスト虽モ其之ヲ譏リシ人ニシテ拔群且
永存スル事業ヲ以テ世ヲ裨益セシトステア
テラルド及ヒジヨン、ジヤコブ、アストル、
テ成セシテ人ナリ事業ノ如クナル者其レ幾許カア
ルヤ思ハサル可ラザルナリ且ツ真ニ職業ヲ勵
ム者ハ惡ヲ為シ罪ヲ犯スノ時少ク隨テ罪惡ヲ
為サント欲スル意念モ亦生スルヲ稀ナリ蓋シ
自然ノ勢カアリテ至正至公人得テ之ヲ屈撓ス

可ラス是ニ由テ各其當ヲ得ルナリ勉勵ノ人ニ
シテ之ガ為メニ拘束セラレ不正不義ヲ行ハ
ト欲シテ而モ得サル者蓋シ少シ圃夫園丁ノ如
キハ或ハ利欲ニ誘ハレ蜂蜜ニ和スルニ糖蜜ヲ
以テシ若クハ牛乳ニ混スルニ水ヲ以テシテ之
ヲ賣ラシト欲スルノアル可ケレ氏亦自ラ其自
然勢力ノ許サバル所ナルノヲ知リ之ヲ欺テ些
少ノ利ヲ私スルハ自ラ正クスルニ如ザルノヲ
覺ラサル者稀ナリ又穀物ノ如キハ一斗一石皆
之ニ應スル心カヲ勞セザル可ラザル者ニシテ

勞ニル所少ナケレハ得ル所モ亦少シ魯鈍ノ人
心思ヲ費スノヲ厭ヒ徒ニ筋骨ヲ勞スルノ過甚
ニ至ルト雖モ其價值ニ至テハ則自然ノ勢力ノ
制定スル所トナラサル莫シ故ニ凡ソ事物ハ之
ヲ作為スル景況ヲ視テ以テ明ニ其成ル所ノ功
ヲ判ス可キモノナレハ必ス正直誠實ヲ以テ為
ザル可ラスカトライル氏此理ヲ説クノ更ニ廣
クシテ且カアリ因テ左ニ之ヲ引ク

『書』言ヘルノアリ曰ク「作業ハ無窮關係
在ル所ニシテ人ノ己ヲ全ウスル所以皆之

由ラザルナシ夫レ荒蕪ノ拓クル田圃ノ開
ル府邑ノ建ツ此教者皆作業ニ由ラザレバ則
得可ラス此教者得テ而シテ後汗穢能ク去ル
可シ汗穢去テ而シテ后能ク健康ヲ保ツ可キ
ナリ且勞作ノ至賤ナル者ト虽モ人苟モ身ヲ
以テ之ニ委セハ則其心樂ミ其神和セサルナ
シ抑人ノ貧賤ナルヤ或情慾危疑ノ為ニ動カ
サレ或ハ悲傷痛悔ノ為ニ阻マレ或ハ憤怒ニ
由テ目暴自棄スルニ至ラレトスルト固ヨリ
多シ然レモ堅忍撓マズ以テ業ヲ勵マバ則彼

情慾危疑悲傷痛悔等亦心頭ニ到ルトナキニ
至ル可シ是ニ於テカ人始テ人ト謂フ可キナ
リ嗚呼勞作ハ譬ヘバ淨潔ナル火ニシラ之ニ
毒ヲ投ジ其烟ヲシテ惡臭ナラシムルモ其烟
ハ則透徹玲瓏復奈何モ可ラザルガ如シト
信セム哉言也爰ニ多忙ニシテ休息スルニ違
アラス業ヲ勉メテ倦ムトナキ民アリテ其銳
氣衰ルトナク勵精止マサルモハ現時勞苦ニ
處スルト虽モ後來將ニ福祉ヲ享ケントス
之ヲ明鑑ニ照スガ如シ蓋シ事ヲ勉メ業ヲ作

スハ乃知識ヲ得ル所以ナリ而シテ今勞作ヲ
厭ハズ辛苦ヲ辞セサルハ是既ニ知識ヲ開
ノ源ニ居ルナリ學知スル所ナカラント欲ス
ト虽モ得可ケン乎

我ガチヤンニング氏亦勞作ノ功德ヲ稱シテ人
知ラ開キ人行ヲ正クスルノ基礎ト為セリ其語
勢稍英國ノ論客蓋シカ指スナリイルノ快活動健ニ
乏シト虽モ其説ク所ノ詳明確實ナルニ至テハ
則チ亦謙ル所ナシ因テ又左ニ之ヲ掲グ
口ク「余世ノ益開テ善ニ進ムヲ喜ブト虽モ勞

ムスル人ヲシテ日々ノ作業ヲ免レシムルカ
如キニ至テハ余ノ敢テ希望スル所ニ非ズ况
ンヤ或ハ之ヲ工肆借圃ヨリ放チ或ハ耒耜斧
介ヲ其手ヨリ去ルヲヤ蓋シ造物者吾人ヲシ
テ此世界ニ居ラシメ勞作ヲ以テスルニ非ザ
レバ則能ク其性命ヲ保ツトヲ得ザラシム是
其至妙タル所以ニシテ勞作ハ余ノ深ク信ジ
テ疑ハサル所ナリ復焉ゾ之ニ背クトヲ欲セ
ンヤ故ニ余ニ能ク物理ヲ變ジ人ヲシテ飢寒
ノ患ナカラシメ外物ヲ取テ自ラ給スルノ勞

ナカラシメ得ルカアリト虽モ余亦敢テ之ヲ
為スヲ欲セザルナリ余ニ能ク元素ヲ和
植物ヲシテ人ノ要スルヲ待ズシテ自ラ生シ
坑物ヲシテ人ノ勞スルヲ待ズシテ自ラ出シ
メ以テ吾人ヲシテ唯感恩ノ情アラシメ得ル
カアリト虽モ余亦敢テ之ヲ為スヲ欲セサ
ルナリ若シ世界ヲシテ果シテ能ク此ノ如ク
ナラシメ事カメズシテ自ラ成リ物勞セズシ
テ自ラ主トハ別人類ノ景况果シテ其レ如何
ノヤ其鄙陋ナル實ニ言フ可ラザルニ至ラシ

蓋シ人 生長シテ氣カヲ有スルニ至ルハ職
トシテ志氣抗勵撓マズ盤根モ避ケス錯節モ
厭ハサルニ由レリ試ニ思ヘ事業ノ容易ニシ
テ且安逸ナル者果シテ能ク人ノ心神ヲ強ク
シ且之ヲシテ鋭ナラシムルヤ人ヲシテ自ラ
已レノカヲ覺ラシムルヤ人ヲシテ堅忍不拔
ノ氣ヲ生セシムルヤ此數者ハ難ニ堪ヘ苦ヲ
忍ブニ非レバ則能ク得可ラザル者ナリ豈安
逸容易ニシテ能ク得可キ所ナランヤ故ニ余
工ハ猶學校ノ如シ人ノ志向ヲ定メ品性ヲ堅

クスル氣カヲ得ル此ニ由サレバ能ハズ而シ
テ之ヲ尋常ノ学校ニ比スルニ其優劣ノ相距
ルト太ダ遠ニ嗚呼飢寒窮厄ノ患世事轉變ノ
慮ハ其レ猶我ガ嚴師ノ如キ乎其功ヲ我ニ成
スヤ決ニテ我ヲ憐ミ我ヲ恕スル友人ノ能ク
及ブ所ニ非ズ余ノ勞作ヲ信ジテ疑ハザル者
蓋シ此ヲ以テナリ夫レ外物ノ宇宙ニ森羅星
列スル其次序宜ヲ得テ美惡愛スベシ其人心
ヲ啓登スル少トニ非ズ然リト虽モ人心ノ漸
ク銳敏ニシテ漸ク堅實ナル所以豈唯此ヲ以

テ足レリト為ンヤ或ハ堅忍不撓以テ能ク殆
ント勤ス可テザルノ障碍ヲ除キ或ハ巧術勵
精以テ能ク洪大ノ勢カヲ制シ或ハ警戒不忽
以テ能ク危險ヲ凌ギ辛苦ヲ經艱難ヲ歷テ而
シテ能ク其心志ヲシテ銳敏堅實ナラシムル
トヲ得可キナリ是ヲ以テ艱難辛苦ノ人心ニ
緊要ニシテ且切實ナルハ幫助引援ヨリ甚シ
故ニ我性ヲ尽シ我性ヲ全セント欲セバ則勞
作セザル可ラズ縱令手ヲ勞ミテ業ヲ作スニ
非ル氏亦別ニ我ヲ勞スル所ナカル可ラス是

故ニ事務学業ヲ論セズ凡ソ容易ニシテ艱難
 ナラス人ヲシテ靈智ヲ鍊リ意思ヲ凝ラシム
 ルニ足ラザル者ハ則未ダ為スニ足ラザル者
 ナリ夫、学ニ就テ或ハ解シ易カラザル難件
 ヲ解スルニテ勉メス或ハ入り難キ佳境ニ入
 ルヲ求メス或ハ全智ヲ集メテ大眼目ニ注
 ガザル者ノ如キハ余其智力ヲ得ルニ至ラザ
 ルヲ知ルナリ
 ロッスブラウン氏近頃聖地ホリゼル小亞細亞ニ在リ即チ
 ニ遊ベリ其紀行ニ曰ク余郊村ニ於テ僅ニ一人

ノ事ヲ為スヲ見タリ其人屋ヲ拂ヘリ是ハレス
 テ在ル所ノサレムノ人其内國製産ノ業ヲ庇
 保スルヲ以テ格蘭回教ノ意ニ戻ルト為シ其
 法例章程ハ内國製産ヲ庇保スル意ヲ参セサル
 ニ由ラズシテ果シテ何ゾヤ彼地ニ於テハ勞作
 ノ廉ナルヲ驚クニ堪ヘタリ其廉ナルハ往昔
 葡萄酒ニ於テ十二時間動作スルモ亦僅ニ一時
 間動作スルモ其賃錢一ペン子英國貨ニ限メ
 ル時ノ如シ製造ノ業ナキニ非ズト虽モ極メテ
 粗ニシテ且其類多カラズ漸ク將ニ衰廢セント

シ而シテ人民大抵皆貧困ニシテ自暴自棄ニ至
ラザルナシト吁是或ハ然ラレ乎余嘗テ聞ク彼
國ニ於テハ内地ノ樹林ヨリ伐リ出シタル船林
ニハ一割五分ノ税ヲ課シ而シテ外國ヨリ輸入
セル船林ハ却テ八歩ニ止リ又專賣ノ權等ア
リテ利ヲ罔スルコトナシト虽モ國君随意ニ租稅
ヲ賦シ地方ノ官吏収歛スルコト苛酷ニシテ民殆
シト餘蓄ナシ故ニ耕者ハ每春子錢家ニ詣リテ
播種ノ資ヲ借ラザルコトヲ得ズシテ其利子ノ貴
キヲ顧ルニ違アラズ是ヲ以テ播種スルト虽モ

勵精勉強シテ心ヲ具業ニ專ニスルモノナシト
此ヲ以テ之ヲ推セム則ク口ッスブラウシ氏ノ言フ
所復疑フ可ラザルナリ

ロベルト、デト、ラーエ、氏合衆國公使ノ職ヲ奉
シテ子イブルス伊太利ニ駐劄スルコト数年ナリ

其言ニ曰ク子イブルスノ惰民ハ其性懶惰ナル
ニ非ス其知ル所ノ事ヲ以テ之ニ囑スルニ常ニ
便捷快速以テ其事ヲ了セザルナシ而シテ其懈
怠スルハ蓋シ為ス可キ業ナキニ因ルノミト嗚
呼此國ヲシテ幸ニ魯帝彼得那破命第一ノ如キ

豪傑ノ治ル所トナラシメバ其景况豈如此ナラ
ン哉其必ス情民ヲ率テ職業ニ就カシムル方法
ヲ建ル_レ復疑ヲ容レズ而シテ此ノ如キ時_ニ際
シ蠹魚ノ輩彼彼得那破倫ノ如キ人ヲ諫テ或ハ
交易ノ事製産ノ業ニ関ル可ラザル_レヲ説キ或
ハ彼ヲ損ジ此ヲ益スルガ如キ事ノ為ス可ラザ
ル_レヲ論ジ或ハ政府ニシテ製産ノ事ニ干與ス
ルハ其権限ヲ踰ル者ニシテ且之ヲ助テ盛ナラ
シメントスルハ猶^ホ草木ヲシラ其一葉ヲ生ズベ
キ處ニ於テ二葉ヲ登セシメントスルガ如シト

言ハズ則彼彼得那破倫ノ如キ者果シテ能ク之
ヲ信ジ其施サレト欲スル所ノ策ヲ舍ツ可キカ
夫レ此數百千ノ情民ヲ率テ職業ニ就カシメ以
テ各其益ヲ得サシメ以テ世ニ用アル者トナラ
シムレバ則以テ自ラ其衣食ヲ給ス可シ衣食給
スレバ則品行亦自ラ正シカラレ然レバ則情民
ヲシテ職業ニ就カシムルハ是該民ノ品級ヲ進
メ該國ノ富强ヲ加ル所以ナリ獨リ該民ノ品級
ヲ進メ該國ノ富强ヲ加ルノミナラス即チ斯蒼
生ノ品性ヲ高尚ニシ斯蒼生ノ幸福ヲ增益スル

所以ニシテ誰カ之ヲ然ラストセンヤ
唯土耳其ノ如キハ則國ニ奴隸ノ俗アリ勞作ス
ル人ヲシテ其品級ヲ進マシメントセバ則奴隸
ヲ解散セザル可ラス然ラサレバ則扞格シテ行
ハレ難シ是ヲ以テ顯理格禮ハ奴隸ヲ存スル説
ヲ持セシカ氏保護製産ノ論ヲ執ルヲ以テ其議
スレীগレール、プロバガンダ、奴隸ノ俗ヲ存シ之
ヲ執ル用黨論ト合ハズシテ彼黨ノ信ズル所ト
ナラスシヨシ、シ、カルホーンノ如キモ亦其議院
ニ在リシ時ニハ保護ノ説ヲ執リ千八百十六年

ノ税目保護税ヲ制定シ且之ヲ懲懲セシカヒ國
ニ奴隸アルヲ以テ害トセス之ヲ養存シテ之ヲ
擴張スルハ則國ノ益ナリト信ヒ奴隸養存者流
ノ魁タリシニ及デハ則衰ジテ固ク自由交易ノ
説ヲ執レリ當時南部豪族ノ如キモ亦其管地内
ニ在ル綿布製造場ヲ惡視シテ以テ奴隸解散ノ
舉ヲ養フノ所ト為シ唯工業ヲ盛大且機巧ニナ
セバ則奴隸ヲ養存ス可ラザルヲ知テ其綿布
製造場ニ使役スル所獨リ白人ニ止リ白人自ラ
驕テ黒奴ヲ惡ムト太過ナリト虽モ嘗テ之ヲ悟

ラズ遂ニ南北鬪ヲ開キ兵ヲ交ルノ事ヲ以テ唯
一時ノ是非ヲ判セントスルニ過キズトスルニ
至レリ宣歎ゼザル可ケン哉夫レ千八百十五年
ヨリ三十年ニ至ルマテ南部工業ノ振起擴張ス
可キ者固ヨリ多シ唯智巧ニ乏シキヲ以テ恨ト
ス而シテ彼豪族ハ奴隸ノ倍アルヲ以テ至大ノ
利益ト為シ遂ニ以テ製作ノ業ヲ惡視シ而シテ
復顧ル所ナキハ其天性ニ出ルガ如クニシテ亦
理ヲ講シ道ヲ説リモ終ニ覺ルヲ能ハズ惜ム可
キナリ南部奴隸養有家兵ヲ擧ント欲シテ院ヲ

退クニ及テ國會保護税目ヲ制定セシガ如キモ
其事異ナリト虽モ蓋シ亦天性ニ出ル者ト謂フ
可キナリ

以上論スル所ヲ以テ之ヲ觀レハ則必ク先ツ人
生ノ幸福ヲ以テ重シト為ス可シ唯未タ貨物低
價ナルヲ以テ盡セリト為ス可ラザルナリ語ニ
云ク生命ハ食物ヨリ貴シト故ニ國家ノ計ヲ為
スハ唯諸貨物ノ價ヲシテ廉ナラシムルノ策ヲ
講スルノミナラス即チ亦人民ノ能力ヲ尽スノ
方ヲ究メザル可ラス彼人民ヲシテ或ハ穀物ヲ

生シ或ハ棉花ヲ産スルノ事ニカヲ尽サシムル
ヲ以テ貨財ヲ殖スルノ法ト爲シ之ヲ以テ職業
ノ類ヲ繁夥ニセシムルニ愈レリトスル説ノ如
キハ固ヨリ謬レル者ナリ而シテ今姑ク之ヲ以
テ是ナリトスルモ之ヲ行ハハ則大ニ害アルハ
他ナシ智能開達ノ道ヲ壅キ文化前進ノ路ヲ妨
ケ以テ人生ノ幸福ヲ損フガ故ナリ嗚呼勞作ノ
功用固ヨリ窮極ナシ而シテ人ヲシテ人タラシ
ムル是ヲ至貴至重ト爲ス察セザル可ケレヤ

第二篇

貿易論

今世貿易ノ盛ナルハ前世ノ遠ク及フ所ニ非ス
夫レ印刷ノ術始テ開ケ米利堅ノ地始テ著ハレ
テヨリ貿易ノ事頓ニ盛大ニ赴キ其進步ノ迅速
ナル古来比ス可キナシ之ニ加ルニ瀛カヲ藉テ
以テ製産ヲ助ケ貨財ノ增益スルノ便捷迅速ニ
シテ有無貿遷ノ道モ亦此ヲ藉テ以テ容易快利
ヲ致セリ是ヲ以テ必需ノ資ヨリ以テ幸福ヲ助
ルノ具等ニ至ルマテ凡ソ人生ノ用フル所ノ物
其增益スルノ速カニシテ且ツ大ナリ是近世貿
易ノ事愈長ニ愈開ケ遠ク往昔ニ超過スル所以

ナリ彼テ一ブスタイルカールテ一ジアレキサン
ドリヤノ如キ其盛ナル時ニ當テハ貿易ノ道モ
亦大ニ開ケタリト虽モ之ヲ倫敦紐育ニ比スレ
ハ未タ同日ニ論スベキ^{カラ}非ザルナリ且本洲ノ
如キハ鐵路ノ設既ニ東迎ヨリ西陞ニ達セリ而
シテ其タリエシ^ニ峽ヲ過キテヒユアンテベック峽
ニ踰エニカラガコスタリカノ中間平原ヲ通ス
ルニ或ハ鐵路ヲ以テシ或ハ溝渠ヲ以テシ以テ
運輸交通ノ道ヲ便スルノ舉アル或ハ將ニ近キ
ニ在ラレトス彼スウエス峽鑿開ノ舉ノ如キハ今

既ニ行ハレテ復タ問フ^トヲ須ヒザルナリ此ヲ
以テ之ヲ觀レバ則世界他部ニ於テ此ニ類スル
舉アルヲ待ズト虽モ大洋ヲ航周シ大洲ヲ横絶
シ以テ彼我^{内外}ノ交通ヲ利シ以テ内外ノ交通ヲ便
ニスルノ道愈開テ而シテ貿易ノ事益盛ナラシ
トスル知者ヲ待^テテ而シテ後ニ知ラス故ニ現今
ノ貿易盛ハ則盛ナリト虽モ之ヲ人ニ譬レハ猶
是如釋ノ時ノ如クニシテ而シテ其既ニ前進セ
シ所ハ是僅ニ後來開^達ノ初步ニ在ルノミ
今ヲ距ル^ト二三百年航海ノ術大ニ開テヨリ或

ハ險ヲ波濤ノ間ニ冒シテ以テ利益ヲ計リ或ハ
地ヲ渺茫ノ中ニ覓メテ以テ功名ヲ謀ルノ事盛
ニ行ハレ其勢人ヲシテ或ハ心酔目眩セシムル
ニ至リ幼年ノ人ト虽モ暴カニ當ラ得ントテ謀
リ田圃ノ業ヲ舍テ、高賈ヲ学フ者少シトセス
彼黑人ノ無智ニシテ且貧窶ナル者ト虽モ其解
放ヲ得ルヤ乃チ耒耜ヲ田圃ノ間ニ棄テ市街ニ
走リ或ハ牡蠣ヲ擔ヒ酒場ヲ提ケ之ヲ呼賣シテ
些少ノ利ヲ得以テ安逸ヲ樂マント欲スル者アリ
或ハ高社ニ至リテ僕タラント欲スル者アリ

蓋シ耐忍シテ物貨ヲ製出スルハ其利ヲ得ルニ
危険ナシト虽モ其得ル所之ヲ商賈冒險ノ大利
ニ比スレハ誠ニ些少ニシテ比スヘキニ非ス農
業ノ如キハ殊ニ然ルヲ以テナリ抑商賈ノ大利
ハ危険ニ涉ルト虽モ圖謀善ク中リ一タヒ之ヲ
得ル所ハ則之ヲ誇リ之ヲ鳴シ世人大抵之ヲ艷
羨歎羨セザルナシ而シテ古来其大利ヲ得ル者
ヲ笑スルニ二十ニシテ一ヲ得ルモ猶或ハ難シ
トスル所ニシテ其餘ハ則産ヲ破リ家ヲ傾クル
者比々皆然リトス然リ而シテ世唯彼大利ヲ見

テ此大害ヲ察セサル者ハ蓋シ賭博シテ利ヲ僥
倖スルハ人ノ同ク欲スル所ニシテ未タ必シモ
其知愚文鄙ヲ以テ論ズ可ラス而シテ之ヲ爲セ
ハ危険ノ事アリ之ヲ思ハ恐ル可キ者アリト
虽モ未ダ之ヲ以テ其欲心ヲ制スルヲ能ハザル
ナリ是故ニ唯各一人ニ就テ之ヲ問ハバ冒險射
利ヲ拒斥スル者アリト虽モ群衆ニ至テハ則常
ニ冒險行險以テ此ニ從事スル者世ニ其蹤ヲ絶
ズ
夫レ貿易ノ事ハ之ヲ行ハント欲スル者ノ多キ

一 既ニ概論スルガ如シ而シテ大洋ヲ通航シテ
事ヲ五大洲ノ間ニ謀ル是其利最ニ大ナリトス
故ニ世ノ汲々トシテ此ニ從事スル者固ヨリ多
シ而シテ其賣買スル所ノ物品ヲ觀ルニ若シ之
ヲ製スル人ト之ヲ用ル人トラシテ互ニ相知リ
其居ル処ヨシテ互ニ相近カラシメハ利ヲ得可
キ者ニ非スト虽モ之ヲ海外ヨリ輸入スルヲ以
テ利大ニ加ルナリ曾テ米國ノ人英國ニ在ラ米
國鑛道會社ノ證書ヲ賣リ其金ヲ以テ製鑛ヲ買
ヒ以テ彼會社ノ鑛路新築及ヒ改築ノ用ニ供シ

大ニ利ヲ得テ遂ニ豪富ヲ成セシ者アリ口スチ
ヤイルドノ豪富ノ如キ其始亦此ノ如キ事ヲ為
セシニ過ザルノミ紐育中衆ニ超エテ最モ富有
ノ名アル商賈某ハ幼少ノ時商賈ノ事ヲ習ヒ
ニ非ズ亦商業ヲ管マンテ志セシニ非ズ齡二
十歳ノ頃ハ業ヲ生徒ニ授テ本府ニ住セシカ偶
其宗家ノ歐洲ニ在ル者嗣ナク某乃チ歐洲ニ赴
キ其遺産ヲ受テ將ニ國ニ歸ラントセシニ一友
人アリ曰ク其金ヲ以テベルフハストノ布帛ヲ
買ヒ歸テ之ヲ賣ラハ大ニ利ヲ得可シト某商賈

ノ事ヲ知ラズト虽モ試ニ其言ニ從ヒ紐育ニ歸
テ之ヲ賣リ果シテ大ニ利ヲ得タリ其本金ノ一
時令^{シムリシ}英貨大抵一弗ニ當リ二三月ニシテ彼遺産
ノ増殖セシト殆レト三倍ニ及ビリ云ク某是
ニ於テ大ニ悟ル所アリ乃チ志ヲ改メテ心ヲ商
事ニ尽シ歐洲ノ布帛ヲ我國ニ輸入シテ之ヲ賣
リ益業ヲ大ニシテ休マサルト四五十年遂ニ豪
富ヲ致シ紐育中之上比肩スル者ナキニ至レリ
嗚呼某ノ如キハ能ク志ヲ成シ功ヲ遂ル者ト謂
フ可シ其光榮固ヨリ言ヲ待タサルナリ而シテ

余竊ニ憾ムヲクハ某ヲシテ其商業ニ足ス所ノ
才能ト氣力トヲ以テ之ヲ工業ニ益サシメガ
一ヲ某ヲシテ果シテ能ク其才能ト氣力トヲ工
業ニ盡シ其歐洲ヨリ輸入シテ利ヲ得タル物品
ヲ製スル事ニ黽勉ヒシメハ其國ニ益アリテ其
功ノ蒼生ニ及フ豈彼商業ノ功益ニ比ス可ケン
ハ是余カ深ク憾ムル所ナリ

余説ラ此ニ至リ自ラ謂ク是説ヤ有名ナル經濟
學士ノ論ト抵牾ス其健筆快舌ヲ以テ余カ説ヲ
襲撃スルヲ知ル可シト因テ姑ク此ニ據ラ深ク

シ壁ヲ高クシ以テ自ラ守ラント欲ス

余ガ見ル所ヲ以テスレハ真成ノ經濟ヲ歸トス
ル所蓋シ人々ヲ以テ各自ヲ贊財ヲ製出スル
ヲ待テ以テ遊手徒食ハ人及ビ無用無益ハ
高ナカラシムルニ在ルナリ今夫レ一郷ノ民其
半ハ無用無益ノ事ヲ為ス者ヲシテ之ヲ愛ヒテ
有用有益ノ事ヲ為サシメハ則其贊財ヲ増シ其
幸福ヲ大ニシ且知識ヲ開キ禮儀ヲ貴ブニ至リ
其變ズル所ノ者愈多ケレハ其成ル所ノ者モ亦
愈多シ是最モ解シ易キノ理ナリ且ツ同勞ヲ以

テ製産スレバ則製産ニ得可キ物ヲ海外ニ仰キ
大洋ヲ航シ大洲ヲ過キテ之ヲ搬運ス是人カラ
徒費シ時日ヲ空過スト云フモ亦証言ト為ス可
ラザルナリ

余ノ見ル所此ノ如シト虽モ固ヨリ天理ニ抗セ
ントスルニ非ス請フ之ヲ諒トセヨ夫レ我國ニ
シテ知非護莫椰子等ヲ煖室ノ中ニ生養シテ熱
帶地方ノ物産ヲ製出セントスルガ如キハ固ヨ
リ勞苦シテ功ナキモノニシテ是等ノ事ハ則亦
余ガ欲セサル所ナリ何ッ人ヲ鼓舞シテ之ヲ為

サシム可シヤ而シテ彼自由交易者流ハ則常ニ
咄々是等ノ事ヲ奉テ保護ノ説ヲ駁ス是至愚ノ
戲談ニシテ固ヨリ取ルニ足ラザルナリ夫レ内
外交渉ノ事ハ有無ヲ相通シ各國ヲシテ各地天
然ノ物産ヲ得セシメ是ニ由テ皆天賜ノ優渥ヲ
受ケザルヲナカラシム是ヲ其功益トス故ニ外
國天然ノ産物ヲシテ内地ニ産セシメント欲ス
ル氏必ス天然ノ障碍アリテ之ヲ産シ得可ラザ
ル者ハ則之ニ尋常ノ税ヲ課スト氏猶且厭フ可
シ況シヤ重税ヲ征シテ其廣布ヲ沮ムヲヤ若シ

政府歳入ノ為メニ非サレハ則稅ヲ除キテ益其
輸入ヲ容易ニス可キナリ
右ノ說ヤ或ハ以テ自由家ニ對スルニ是ラニ因
テ今爰ニ此保護稅ヲ施サレトスル所ノ処ト之
ヲ施サレトスル所以ノ理トヲ示サレト欲ス
夫レ茶ハ殆レド專ラ支那日本印度ノ産スル所
ニシテ而シテ我聯邦中ノ彼數國ト緯度同ク氣
候等シキ地方ニ於テモ亦生セサルニ非ズ唯僅
少ナルノニ南加羅來那及東テネシーニ於テ
ハ試ニ茶ヲ植エシニ皆滋生成熟ニ其他聯邦中

之ヲ試ミシ処多ク之有ル可クシテ培養宜ク得
レハ則ツノ繁茂成熟スルヲ復支那ニ譲ラザル
ニ至ラン一疑ヲ容ガルナリ
然ルニ今茶ハ支那日本ノ産スル所ナルヲ以テ
我國人ノ茶ヲ買フニ費ス所ノ價錢我政府ノ課
スル所ノ稅ヲ除キテ尚ホ支那製茶師ノ賣ル所
ノ價ヨリ貴キ一三倍ヨリ六倍ニ及ベリ香綠茶
ノ如キハ税金ヲ除キテ尚ホ一斤ノ價一弗ニ下
ラス而シテ直ニ製茶師ヨリ之ヲ買ハハ則必ス
一斤二十セント乃至三十セントニ過ズ然レ

其原價ニ超ル所ノ錢銀ハ則支那ヨリ聯邦ニ至
ル際高賈牙僮等ノ利スル所ニ非スニテ何ゾヤ
余ヤ此原價ニ超ル所ノ錢銀ヲ以テ浪費セルニ
モノト做セリ故ニ此浪費ノ錢銀ヲ以テ製茶人
ト喫茶人トニ分テト欲ス彼ノ自ラ茶ヲ製シ
テ之ヲ喫スル人ノ如キハ則將ニ尽ク此浪費無
キヲ得ントスルナリ是乃チ勞作ノ報ヲ厚ク
スル所以ニシテ米國ノ勞作ニ至テハ則殊ニ然
リトス今試ニ支那ニ於テハ製茶師一千人アリ
トシ子^グハ^ダ米國ニ於テハ鑛坑ニ從事シテ輸

入ノ茶ヲ喫スル者一千人アリトシ又商賈牙僮
航海者等此鑛坑ヨリ出セシ所ノ錢銀ヲ以テ彼
製茶師ヨリ茶ヲ買ヒ之ヲ喫茶人ニ運輸スル事
ニ從テ者三四千人アリトスルハ僅ニ一千ノ
交易ヲ為スニ五六千ノ人ヲ用フルナリ然ルニ
余ガ説ヲシテ行ハレシメハ則我民二千ノ茶ヲ
製スルノ事ニ從テ尚二千ノ各種物品ヲ製
スル者アル可クシテ此眼目ノ交易ヲ為スニ必
用ナル人員ノ如キハ或ハ一千ノ上ニ出スニテ
是ラン是乃チ彼外出ノ錢銀ヲ留テ以テ我國

信ノ紙幣ヲ援ケ以テ我國鉅萬ノ公債ヲ償フ
道ニ非ズヤ

夫レ余ガ是説ヲ為スハ支那ヲ賤ニ惡デ然ルニ
非ス其異教ヲ奉シ其多ク妻妾ヲ養フヲ嫌フガ
故ニ非ス其頭髮豚尾ノ如クナルヲ惡ニ其狗肉
ヲ嗜ムヲ賤ムニ由ルニ非ス余何ゾ其習俗ノ異
ナルヲ以テ余ガ經濟ノ説ヲ私シ余ガ經濟ノ旨
ヲ動サレ乎亦余我國ノ産茶ヲ私庇シ我國ノ人
民ヲ私保セント欲シテ是説ヲ登スルニ非ス然
ルヲ況ンヤ産茶人ニ專賣ノ權ヲ許シテ獨リ之

ヲ益シ而シテ人ヲ損スルニ忍レヤ余何ゾ産茶
人ヲ私庇シテ其利益ヲ助加セレヤ唯國家公共
ノ利害得失ヲ洞察シテ是説ヲ為ス而已夫ノ衆
ニ先キテ或ハ茶種ヲ播シ或ハ茶樹ヲ植エ以テ
利ヲ己ニ專ニスル者ノ若キハ則未ダ必シモ之
無シト謂フ可ラズト虽モ亦當ニ之ヲ置テ問ハ
ザルベシ若シ此ノ如キ事ヲ以テ專賣ノ權ト云
ハバ則彼始テ葡萄ヲ植ウル者始テ馬鈴薯ヲ産
スル者モ亦專賣ノ權ヲ有スルト称ス可キ乎事
理ヲ辨ゼザルモ亦甚シト謂フ可シ夫レ衆ニ先

チテ茶ヲ製シ以テ大ニ利ヲ得ルハ是惡ム可キ
ニ非スミテ却テ大ニ喜ブ可キナリ其利スル所
愈大ナレハ則人之ヲ羨ミ倣テ以テ茶ヲ製スル
者愈多キニ至ラン茶ヲ製スル者愈多ケレバ則
其利獨リ專ニス可ラズシテ終ニ他ノ職業ト優
劣ナキニ至ラン是人タル者利ヲ欲スルノ意
ヲ脱スルニ非ルヨリハ勢ノ必ズ至ル所ニシテ
固ヨリ然ラザルヲ得ザルナリ而シテ人タル者
ノ利ヲ欲スルノ意ヲ脱スルヲ能ハザルハ猶水
ノ下ニ就カザルヲ能ハザルガ如クナレハ其勢

ノ此ニ至ルヤ亦何ゾ疑ハシ然レハ則今ノ衆ニ
先チテ大利ヲ得ルハ是衆人ヲ鼓動勸奨スル所
以ニシテ後來遂ニ其價ノ廉ナルヲ致スノ道ニ
非ズヤ是余ノ喜ブ可シト為シテ而シテ之ヲ得
ルニ保護ヲ以テセント欲スル所以ナリ
或人問テ曰ク茶ヲシテ内國ニ産セシメハ其價
必ズ廉ナルニ至ルヤ否ヤト
曰ク畢竟其價ノ廉ナルニ至ルハ余ノ固ク信ズ
ル所ナリト虽モ沿海地方ニ於テハ未ダ其價ノ
必ズ減スルヲ保セザルナリ夫レ疇昔ハ專ラ外

國ニ仰キ現今ハ保護ニ因テ内國ニ産製スル所
ノ物其價値ヲ以テ曩ノ外國ニ仰ギレ時ニ比ス
レバ殊ニ廉ナル者百ニシテ九十ヨリ少ナカラ
ズ唯沿海ノ地ニ於テハ外國ヨリ輸入セバ或ハ
更ニ廉ナル者アラン然レモ之ヲ全國ニ平均セ
通シテ賣カラザル者ナシ例ハ食鹽鑛鉄ノ
如ク其物質重大ナルモノハ其價ヲ記スル常ニ
紐育ノ時價ヲ以テセリ然レモ是等ノ物ハ國ノ
内部ニ産スル所多クシテ之ヲ用ル人モ亦内部
ニ少シトセス故ニ其内部ニ功用アルハ一個ノ

交易要地蓋シ紐育ヨリ大ナリトスサギナウ若クハカナソノ食鹽ノ如キ紐育ニ於テハトルク島ヨリ糴スル所ノ食鹽ニ比スレバ其價貴キト
二倍ナリト虽モケレトキイ若クハウイスコ
ニ於テハ外國ノ食鹽ニ比スレバ大ニ廉ナ
リ是地ニ輸入ノ食鹽ハ西地方ニ搬運スルノ
費用多キヲ以テ内國ノ所産ニ比スレバ其價騰
貴スルガ故ナリ凡ソ物質ノ大ニシテ且重キモ
ノハ大抵皆此ノ如シ然リ而シテ自由交易家ノ
價値ヲ比較スルヤ皆沿海地方ノ時價ヲ以テシ

而シテ徒ニ外國輸入品ノ價賤クシテ内國製産品ノ價貴シトス亦思ハサルノ甚シキナリ自由交易家ノ常言ニ曰ク保護ハ富有ナル財主ノ市場ヲ擅ニセント欲スル者ノ計策ニシテ蓋法例ヲ藉リテ精美ニシテ價廉ナル物ヲ退テ粗惡ニシテ價貴キ物ヲ鬻キ以テ壟斷ヲ私ニ以テ大利ヲ罔セント欲スルナリト余カ是言ヲ思フヤ茲ニ久シ而シテ以テ妄想臆斷取ルニ足ラザル者トス之ヲ史冊上ニ照セバ則炳然其然ラザルヲ見ル可クシテ少シク事ヲ解スル者誰カ其

妄ヲ笑ハサランヤ又試ニアレキサンドル、ハミルトン氏ノ製産報聞ニツチユウ、カーレール。ヘゼキヤ、ナイルス等諸氏ノ著書及ヒヘンリイ、タレイ、トマス、ニユー、トシ、ジエームス、トツド、ウオルル、フォルワールド、ロル、マシ、マルラリイ等數氏ノ演説大統領及ヒ州尹スナイドル、シヨルジ、クリントン、ダニエル、トムキン等數氏ノ報狀ノ類ヲ参看セバ則見ル可シ諸氏ノ説ク所皆我國從來ノ職業ヲ庇保セント欲スルニ非スシテ我國未有ノ職業ヲ振興セント欲スルニ出デ其説ヲ主張

スルハ該職業ヲ營ム者ニ利ヲ私セント欲スル
ニ非ズシテ永ク農夫ノ職ヲ甘スル者ヲ裨益セ
ント欲スルニ因ルヲ當時我國ノ民製作ノ事
ヲ知ル者少ク農業ヲ專ニスル者總民口ノ八分
七ヲ以テ算ス可クシテ或ハ高賈ノ事ヲ營ニ或
ハ航行ノ事ヲ勤メ或ハ手工ヲ職トスル者ノ如
キハ十分ノ一ニ過キス彼外國ノ職業ヲ取り移
シテ之ヲ内國ニ起シ粗惡ナリト虽モ外品ヲ内
國ニ製セント欲スル者ニ至テハ誠ニ稀少ニシ
テ唯政府ノ庇保ヲ藉リテ以テ僅ニ外國ノ抑壓

ヲ免レシメ今其保護說ノ一斑ヲ見ント欲セ
バヤ子ラル、ヂヤクソン、氏ノヴァイルジニヤ州ノ
ドクトル、エ、ル、エーチ、コールマン氏ニ與ヘタル
書ヲ觀ルニ如クハナシ是時ハ我ガ英軛ヲ脱セ
シ以來既テ五十年ニ垂ントシ而シテシヤクソ
ン氏政府ニ在テ事ヲ執ルノ久キ既ニ三十年ノ
星霜ヲ経同氏保護ヲ以テ經國ノ大計ト為シテ
大ニ之ヲ爭ヒシ日ナリ因テ左ニ其一節ヲ掲グ
曰ク現今農事ヲ勤ムル人其景况果シテ如何
ゾヤ其贏餘ノ物産ヲ鬻クニ市場アリヤ唯棉

花ハ則賣ル可キ處アリト虽モ其他ノ農産ニ至
テハ内外共ニ之ヲ賣ル可キ地ナシ内外共ニ賣
ル可キ地ナキハ農事ヲ勉ムル人過多ナル故
ニ非スヤ農事ヲ勉ムル人ノ過多ナルハ勞作ヲ
施スノ事其類少クシテ勞作偏倚スルガ故ニ非
ズヤ故ニ職業ノ類ヲ多クシ以テ勞作ノ一方ニ
偏倚スル患ヲ除クハ方今國家ノ急務ナリ今夫
レ農業ニ過多ナル勞作ヲ移シテ之ヲ工藝製作
ノ業ニ施シバ農産ヲ繋クニ内國ニ於テスル
ヲ得可シ是即チ無用ノ勞作ヲ以テ有益ノ事業

ニ施スノ道ニシテ邦國ニ裨益アル隨テ大ナ
ラン今試ニ農事ニ従フ人男女老少ヲ論ゼズ
其六十萬ヲ取テ之ヲ他ノ職業ニ就カシメバ
則内國ニ於テ農産ヲ繋グハ之ヲ歐洲ニ於テ
スルヨリ更ニ容易ナルニ至ルテ瞭然タリ蓋
シ我輩ノ英國高價ニ依頼シテ其計術ニ従順
スルテ亦既ニ久シ當時米國ノ航海スル者猶
間ニ往來シテ物産ヲ交通ス故ニ英人ノ利ヲ
得ル大ナラズトセズ是言蓋シ此ヲ謂フナリ
今ニシテ而シテ經國ノ大計ヲ建テ我が獨立
ノ實ヲ鞏クシ歐洲ノ貧民窮人ヲ養ハズシテ

當時米國農産主廉ナリ英人之我が貧民窮人
ヲ買ヒ去ラ之ヲ歐洲ニ鬻グ我ガ貧民窮人
ヲ養フニ非サレバ國家ノ窮乏企テ、歎ツ可
キナリ

是故ニ余自ラ謂ラク今ノ時ニ當テ意ヲ用井
思ヨ注ギ以テ関稅表目ヲ制シ以テ我國債ヲ
償還スルノ道ヲ立テ以テ我が自由ト安全ト
ヲ保チ以テ勞作ヲ分配シテ我が幸福ノ基ヲ
固クシ我が獨立ノ勢ヲ實シ我が富裕ヲ致ス
ノ謀ヲ為サバニ可ラザルナリト

余ガ此人口ニ膾炙スル文ヲ引クハ蓋シ我國當

時ノ形勢ヲ明ニシ且拔群ナル人ノ保護ヲ以テ
罷弊ヲ矯救スル策ト為シテ之ヲ主張セシヲ明
ニセント欲スルニ由リテ余ヤ此說ヲ以テ確實
ニシテ至當ナル者ト為セリ世或ハ断然之ヲ非
トシ之ヲ斥ル者アリト虽モ猶之ヲ以テ當時ノ
形勢ヲ詳ニシ我が智慧アル政事家ノ保護ヲ以
テ弊害ヲ救ハント為レタル所以ヲ明ニスベキ
者ト謂ハサルヲ得ザルナリ

自由交易家ノ說ニ曰ク自由交易ハ農夫ニ二所
ノ市場ヲ與フレルニ農産ヲ賣ルノ内外ニ於テ保護

ハ唯一所ニ止ルト
唯内國ニ於テ農産ヲ賣ル
是亦事理ヲ解セザルノ説ナリ余請フデヤクソ
斗氏ノ言ヲ藉リテ之ヲ論ゼン當時関稅ヲ賦ス
ル重キニ非ズシテ外國輸入ノ金属器具製品等
我市場ニ充滿セリ然レヒデヤクソン氏猶棉花
ヲ除テハ則農産ヲ賣ル可キ地内外共ニ之有ラ
ザルヲ言ヒ内國製作ノ事ヲ盛大ニシテ以テ
之ガ市場ヲ設ク可キヲ説キ其言明晰ニシテ
亦疑ヲ容ル所ナキニ非ズヤ又或ハ説ヲ為シ
テ曰ク我農産ノ市場ニ乏シキハ英國ノ穀物條

例ヲ立テ外國ヨリ穀物ヲ輸入スルヲ禁ゼシ
ニ因レリ而シテ今也此禁既ニ解ケタリ故ニ復
患フ可キ者ナシト是亦其實ヲ得ザルノ論ナリ
我農産ヲ以テ之ヲ外國ニ運輸スルニ天然ノ不
便アルニ由テ其利ヲ得可ラズ而シテ其不便ノ
除キ難キハ人造不便ノ比ニ非ザルナリ蓋シ菜
菓ノ如キ凡ソ可食物産ハ之ヲ賣ル市場ノ接近
ナルヲ善トス然ラズレバ全ク廢敗シテ非常
損失ヲ招クヲアリ且其質重大ニシテ之ヲ遠方
ニ搬運スルヲ容易ナラザルナリ

英國ニ於テ穀物條例ヲ廢セシ後今ヲ去ルノ十
三四年前余嘗テアイオワ州^{アイオワ}ニ至レリ
府ハミスシピイ河ヲ距ル^{僅ニ}五十六マイル
ニシテ鐵路アリテ之ト相通セリ時方ニ中冬ニ
屬ス余其衢街ヲ觀シニ農夫ノ玉蜀黍ヲ大車ニ
載テ行之ヲ賣ル者終日群ヲ為セリ其價ヲ問ヘ
バ一ブワセル僅ニ十五セントニ過ギズト虽モ
之ヲ賣ル^ノ甚タ難ク偶之ヲ賣ルモ僅ニ子ブラ
^{ウカノ}フロレンス銀行ノ醜惡ナル紙幣ヲ得ル
ノニ而シテ之ヲ金ニ換ヘントスレバ其扣頭一

割ヨリ二割五歩ニ至ルアリ若シ或ハ之ヲ拒ム
キバ他ニ得可キ貨幣ナクシテ雜貨ヲ受ケ納メ
ザルヲ得ズ然リ而シテ此穀物ヲ以テ紐育ニ賣
レバ其値アイオワノ市價ヨリ貴キ^一五倍ニシ
テ之ヲ紐英倫ニ賣レバ其値六倍ノ貴キヲ得可
シ之ヲ英國ニ賣レバ其更ニ貴キ^一疑ヲ容レザ
ルナリ然レモアイオワヨリ之ヲ該處ニ搬運セ
バ其費用大ニシテ得失相償^フテ能ハズ是大正
洋彼此ノ海岸ニ於テ海關稅ヲ征スルニ由テア
イオワノ農産不利ヲ致スニ非ズ唯其物質重大

ニシテ搬運ノ路半大洲ヲ過キ又大洋ヲ踰ルヲ
以テ然ルナリ尔後搬運ノ費用稍減シタレ凡猶
多クシテ其實運輸ヲ禁止セルト異ナルヲ
夫ノアイオワノ農業ノ如キ實ニ其報酬ヲ益シ
タル者アルハ則是府邑村落及ビ製造所鑄鍊爐
鑄造場等ヲ州内ニ建設シ其農産ヲ齎ダニ其市
場往日ニ比スレバ大ニ接近シテ農産ノ抵值大
ニ増加セシヲ以テナリ之ヲ要スルニ是即チ此
ニテラルデヤクソン氏ノ大計ニ從テ其先見セシ
成果ヲ得タルナリ

議者或ハ曰ク保護ヲ為スニ之ヲ大ニスレハ已
利アリ而シテ之ヲ小ニスレハ不可ナルハ抑
何故ゾヤ関稅表目ヲ製シテ周ク合衆國ヲ藩籬
シテ可ナラバ何ゾ之ヲイルリノア州若クハロ
ードアイランド州ニ施シテ不可ナルヤト是亦
兒童ノ戲談ノニ此說ヤ猶我國ノ山林漸ク尽テ
柴薪ヲ省約ス可キニ至リ一煖爐ヲ以テ二火爐
ノ用ニ充テント欲スル時ニ方テ一煖爐ヲ以テ
柴薪ノ半ヲ省約スルヲ得バ何ゾ二煖爐ヲ設テ
以テ全ク柴薪ヲ省カザルヤト云フ論ノ如シ是

拘泥ノ最モ甚シキ者ニシテ事務ニ通セザルノ
極ナリ何ゾ喋々ヲ須テ其非ヲ知ンヤ實ニ一聽
以テ百笑ヲ来スニ足レリ夫レ職業ハ其何タル
ヲ論ゼズ其製産ヲ買フ者ナカル可ラザルヲ以
テ必ズ之ガ所ア一ヲ要ス而シテ資本ヲ集メ技
巧ヲ貴ビ機器ヲ用ル者ノ如キハ殊ニ然リトス
是理ノ最モ賄易キ者ニシテ復タ言ヲ待ザルナリ
然リト虽モ唯是理ヲ推シテ關稅表目ノ設ク可
ノザルヲ説クハ猶牛羊ヲ養フニ牧場ヲ變更ス
レバ能ク長育スルガ故ニ年中日數ニ從テ牧場

ヲ區畫シ藩籬ヲ設ケテ日ニ其所ヲ覆ズルヲ要
スト云フガ如シ豈拘泥ノ甚シキ者ト謂ザル可
シヤ夫レ農産製品ヲ銷ハズ之ヲ國中ニ流通交
易スレバ其費用ハ人々所需ノ物貨僅ニ一方里
ノ中ニ有ラザル者ナキニ比スレハ必ズ少ナカ
ル可シト虽モ鑛鉄棉花羊毛食物等ノ重旦大ナ
ルモノヲ此大洲ヨリ彼大洲ニ運輸シテ之ヲ鬻
ギ而シテ器具製品ヲ購テ歸ルハ大ニ損スル所
ナキヲ得ス旦夫レ事ヲ處スルニハ能ク中道ヲ
得ルヲ以テ貴シトス固ヨリ一程ニ拘泥ス可ラ

ザルナリ今余カ説ク所ハ則此中道ヲ得ント欲
スル者ナリ而シテ此中道ハ市場ノ時價ヲ以テ
一概ニ定メ難キ者ニシテ余將ニ後篇ニ於テ其
理ヲ示サントス

余ヤ貿易ノ説ヲ持スル此ノ如シ蓋シ一ハ貿易
ヲ為スニ適當ノ廣キ場所ヲ要スト虽モ謾ニ之
ヲ廣クシテ限界ナキヲ欲セサルナリ二ハ貿易
ノシテ職業ノ從タラシメ之ガ首タラザラシメ
ント欲スルナリ三ハ地球上各國ノ物産ヲ交換
シ工藝ヲ互通スルト虽モ工藝未ダ盛ナラザル

國ヲ抑壓シテ却テ其本旨タル物産交換工藝互
通ノ道ヲ破ルニ至ラシメザルヲ欲スルナリ
夫レ工藝未ダ盛ナラザル國ノ工藝成熟シタル
國ニ抑壓セラルハ世ニ間有ル所ニシテ之ヲ
譬フルニ猶甲冑ヲ被タル精練ノ強兵ヲ以テ不
練ニシテ且甲冑ヲ被ザル弱卒ヲ擊ツカ如シ其
競争固ヨリ道ヲ得タリト謂フ可ラズシテ其成
果ヲ思想スルモ亦未ダ其利ヲ見ザルナリ余嘗
テ小説ヲ讀シニ驢馬ノ雛雞ニ跳舞スルア
リ驢馬雛雞ヲ戒メラ曰ク汝曹各自ヲ警備ス可

シト是言ヤ實ニ然リトス然レモ驢馬ニシテ而
シテ能ク是言ニ從フコトヲ得可シ嬰弱ノ雛雞ノ
如キハ則何フ以テ能ク自ラ其身ヲ守ルコトヲ得
可クンヤ而シテ工藝ノ巧拙生熟其相去ルコト甚
ダ遠キハ其奚ゾ彼驢馬ト雛雞トニ異ナラン哉
故ニ職業モ之ヲ兵事ニ喻フレバ固ヨリ在陣ノ
時戰鬥ノ地ナカル可ラズト虽モ亦未ダ壕ヲ深
クシ壁ヲ固クシテ自ラ守ルコトヲ要セサルニ至
ラザルナリ其城塞ヲ築キ干戈ヲ備ヘ守兵ヲ置
クノ方法ニ至テハ則余篇ヲ繼キ卷ヲ迤テ之ヲ

詳ニセント欲スルナリ

第三篇

資本技工及ビ心智ニ係ル所有

ヲ論ク

職ヲ勵ミ業ヲ勤メ而シテ其得ル所贏餘アリテ
消耗セザル者通シテ之ヲ資本ト云フ隨テ得テ
隨テ費セバ則資本アルコトナシ是故ニ上古以來
凡ソ何物ニテモ始テ製産シテ贏餘アル人ハ則
之ヲ稱シテ世間最先ノ資本主ト名ク可キナリ
彼ノ野蕃ノ定住ナク自然産ヲ頼ミ所謂手口相
接シテ僅ニ生ヲ保ツ者ノ如キハ固ヨリ資本ヲ

有スルヲナシ然レトモ勢止マザルニ至テハ資本生ゼザルヲナシ若シ其蓄人貯蓄ノ無カル可ラザルヲ解シ業ヲ為シテ後日ニ備ヘバ則一箇ノ資本主ト称スルヲ得ザルニ非ルナリ故ニ文化暢達ノ世在リト虽日ニ得ル所以テ夜ニ費ス所ヲ充ルニ足ラス衣食ノ為メニ負債ニテ家什等ヲ典賣スルモ以テ之ヲ償フニ足ラザル者ノ如キハ蠻野ノ民ヨリモ資本ヲ有セザル者ト云フ可ク亦破産倒店ノ人ニ非ルヨリハ凡ソ成丁ニシテ自由ヲ得タル人ハ大抵資本主ナ

ラザルコト無キナリ

文明開化ナル者ハ資本積蓄シテ勞役ヲ施スニ次序アルノ致ス所ニシテ其一ヲ欽ケバ則文化暢達スルヲナシ各人能ク勉勵シテ終日勞役ヲ為シ以テ其効アリト虽モ苟モ得ルニ隨テ之ヲ費セバ則文明ノ國ト虽忽チニシテ野蠻ノ醜態ニ陥リ人民僅ニ生命ヲ存スルモ亦甚難キニ至ラン情漢ノ如キハ資本ヲ輕ズルト虽モ一ツ七窮谷スルニ至テハ遠慮アルハ平生節儉シテ以テ窮乏ニ備フル所即資本ニ藉テ以テ僅ニ生

息シ之ニ報フルニ捷便ニシテ且ツ其當ヲ得ル
モ若シ一日資本主アラザレハ則其業ヲ為ス
能ハズ其資本主ナキニ及テハ其飢渴ニ迫ル
一タビニアラズシテ其形状ノ懸ム可ク悲ム可
キハ世間未ダ其比ヲ視ザルナリ之ニ及シテ苟
モ資本アリテ能ク之ヲ用ヒバ良友アルガ如ク
ニシテ鄙野ナル者モ變テ禮文ヲ尚ヒ落魄窮
厄ノ地ニ在リト虽亦自ラ安ズル所ナキニ非ズ
資本ノ関スル所亦大ナラズ乎
資本アル者ハ窮乏者ノ為メニ害アルニ非ズト

虽但天賜ヲ專ラニシ若クハ窮者ヲシテ其資本
ヲ用ルヲ得ザラシメ若クハ之ヲ用ルニ非常
高値ヲ出サシムルニ至テハ則資本ト窮乏ト
相抵觸セサルヲ得ザルナリ蓋シ人勉ムレハ則
生息シ惰レバ則死没ス是レ自然ノ理ニシテ造
化ノ人ヲ遇スルヲ嚴肅ナリト謂フ可シ然リト
虽土地ハ菓實蔬菜ヲ産シ處トシテ人身ヲ養フ
可ラザル莫シ然リ而シテ資本アルニ至テハ土
地ヲ分テ各之ガ主トナリ以テ之ヲ肥沃ナラシ
メ以テ耕耘ヲ施シ他人之ヲ侵スヲアレハ則以

テ犯則ノ人ト為ス是ニ於テ所有ノ權始テ立テ
人々均シク天ニ受ル所ノ權為メニ制セラル之
ニ加ルニ或ハ藩籬ヲ設ケ鎖鑰ヲ施シ或ハ人ヲ
以テ之ヲ守リ以テ奪畧劫掠ヲ警ム而シテ人濫
リニ侵スヲ能ハス是レ乃チ資本ト窮乏トハ相
抵觸スルヲキ能ハズト謂フ所以ナリ然リト
虽亦是勢ノ己ムヲ得ザルニ成ル者ニシテ財產
權利固有不易ノ限界アリテ以テ其外ニ伸ス
ヲ能ハザルニ非ルヨリハ則以テ避ク可ラザル
者也

世ノ經濟學者流多クハ財產ト資本トヲ分テ噴
々之ヲ論ズ而シテ余今之ニ從ハズシテ以テ此
說ヲ為ス或ハ異ナル者アルニ似タリト虽其歸
スル所ヲ推セバ則必シテ同ジカラズンバアテ
ザルナリ世上經濟學士ノ說ニ曰ク資本ハ一ト
シテ財產ナラザルナシト虽然レ氏未ダ財產ヲ
以テ尽ク資本ナリト曰フ可ラズ資本ハ則財產
ヲ分チ或ハ之ト種ヲ殊ニシ之ヲ用テ以テ勞作
ヲ為シ由テ以テ他ノ財產ヲ製産スルノ謂ヒナ
リト余ヲ以テ之ヲ視ルニ其言全ク非ナラズト

虽其係之所未ダ大ナリト為ザルナリ請フ詳カ
ニ之ヲ論セム今夫レ齡恰モ成丁ニ及ブノ人始
テ獨立自主ヲ得終年信ヲ重シ儉ヲ守リ力行傭
作ニ歳晚ニ至テ傭主ヨリ餘蓄金百弗ヲ得バ則
佢レヲ以テ資本主ト称ス可シ然レ氏其人此金
ヲ以テ金装ノ時儀ヲ購ヘバ則忽チ資本ヲ有セ
ザル人トナル歟明日時儀ヲ以テ馬ニ易ニ以テ
之ヲ用テ耕耘ヲ助ケバ則復資本主ナリ其穀熟
スルニ及ブ之ヲ収獲シ之ヲ賣テ三百弗ヲ得ル
即チ皆資本ニ非ルナシ今佢レ娶ラント欲シ先

ツ其金ヲ以テ家屋ヲ造リ其志唯妻ト居ヲ同ッ
セントスルニ在テ而シテ其家ヲ以テ自ラ劳作
スルノ資ト為サバルトキハ佢復資本ナシト云
フ可キ歟余ヲ以テ之ヲ視レバ今日ノ財産ハ明
日ノ資本明日ノ財産ハ今日ノ資本ニシテ本ニ
物ナシ故ニ財産ハ都テ是レ資本ニシテ資本ハ
皆是レ財産ナリ余ノ財産ト資本トテ分テ之ヲ
論ゼザルハ蓋シ是ヲ以テノ故身但資本ヲ用井
劳作ヲ施スモ之ヲ無益ノ事ニ於テシ少シモ財
産ニ補ヒナキモノアリ余モ亦敢テ其事ナシト

言ハザルナリ

夫レタツドモル。テীগス。バルマイラノ壙址ノ
如キハ固ヨリ財産ニ補益ナキ者ニシテ目シテ
以テ資本ト称スルヲ得ズピラミツドノ如キモ
亦然リ其始之ヲ作りシ時ニ當テハ人カヲ尽セ
シ者ト虽今少シモ其價値アルトナシコリセヨ
ム若クハボムペイノ遺址ノ如キモ亦價値アル
誠ニ少シ凡ノ奢侈ニシテ財用ヲ浪費スルハ
唯邦國一般ノ財産ニ補ナキノミナラズ貧民窮
人ヲ救フモ亦能ハザルナリ故ニ醉狂ニタリ痴

漢或ハ癡狂人ノ行、金ヲ街衢ニ撒シ以テ群衆ヲ
シテ競拾セシムルガ如キハ則其群衆ノ益スルニ
非ス却テ之ヲ誤ル者ナリ彼ノ既ニ巨萬ノ財産
ヲ有スルト虽猶節儉ニシテ其愈増加セシメ
勉ムル者ニ至テハ則其澤ノ貧人窮民ニ及ブ奢
侈ニシテ浪費スル者ノ比ニ非ルナリ是レ世ノ
通論ニシテ余が見ル所モ亦然リトス然レモ富
家財産ノ増香ニ隨テ傭工ノ給銀必シモ或ハ昇
リ或ハ降ルト云フ説ニ至テハ余未タ茲ニ疑ナ
キ能ハズ今姑ク弥尔氏ノ言ニ就テ之ヲ論ゼン

其言ニ曰ク勤勞ハ資本ノ限盡スル所ト為ルト
彼説ニ比スレバ稍固定ノ意少シト虽余猶以テ
簡約ニ過ラ盡サバル所アリトス試ニ看ヨ金坑
登見ノ年即千八百四十九年カリフラルニヤニ於テハ
資本甚ダ稀ニシテ且貴シト虽勞作ノ需要甚ダ
緊切ニシテ其報酬モ亦大ニ優渥ナリシス非ズ
ヤ今日カリフラルニヤノ財産之ヲ當時ニ比ス
レバ其増殖セシト必ス三倍ノ多キニ至レリ然
リト虽勞作ノ需要及ニ其報酬未ダ當時ノ如ク
緊切ニシテ且優渥ナラザルナリ苟モ彼説及ニ

弥尔氏ノ言ヲ以テ果シテ能ク理ニ當ル者ト為
セバ則今日勞作ノ需要宜シク當時ニ緊切ニ
シテ而シテ其報酬モ亦當時ヨリ優渥ナル可キ
ナリ然リ而シテ此事ナキハ蓋シ彼説此言ヲ以
テ推ス可ラザル者アレバナリ抑國民財産ノ増
殖スルヤ他物皆依然旧ノ如クナレバ則貧人由
テ以テ恒傭ヲ得テ而シテ其報酬ヲ受ルモ亦當
ニ厚カル可シ故ニ其澤貧民ニ及ブ固ヨリ少シ
トセザルナリ然リト虽財産増殖スレバ則土地
等凡テ不動産ノ價モ亦騰貴セザルヲ得ズ是ニ

於テ傭作スル人或ハ獨立ノ地主ト為リ或ハ自
主ノ工人ト為ラント欲スルモ亦難シトスル所
ナキニ非ズ是ヲ以テ之ヲ視レバ則財産増殖ス
レバ貧民固ヨリ利潤ヲ蒙ル可シト雖亦未タ成
ハ之ガ為メニ困スルナシト云フ可ラズ是レ
勢ノ已ムヲ得ザル者ニシテ余敢テ資本ト勞作
トラシテ相抵牾セシメント欲シテ此說ヲ立
ルニ非ルナリ
或ハ云フ資本ヲ消耗セズンバ以テ物貨ヲ製産
ス可ラズト余亦之ヲ以テ通論トセズ夫レ物ノ

性多ハ脆弱ニシテ以テ永持シ易カラズ故ニ之
ヲ用テ休マザレハ則其早晚消耗スルヲ知ル可
シト虽然レ凡百工^一カ^二ル^三段^四十^五八^六步^七除^八ナ^九リ^十我^{十一}四^{十二}ヲ
耕ミタル鋤ハ僅ニ地ニ磨ヒテ光輝ヲ増スノニ
今年耕耘ニ習熟セシメタル馬ハ来年ニ至テ愈
用ニ適ス余故ニ以テ謂ラク先ツ豫メ其抵値ノ
更ニ多キヲ視テ而シテ物ヲ變ジテ之ヲ作ル此
ヲ勤勞ト為ス可シト今夫レ一年産スル所ノ穀
之ヲ分テ以テ一家ノ食ニ供ニ以テ傭作人ニ與
ヘテ其傭銀ニ充テ又以テ種ト為シテ之ヲ播シ

翌年ノ秋獲亦以テ其倉庫ヲ充實シ尚ホ餘アリ
テ之ヲ販賣スルニ足ラン故ニ資本ヲ消耗セズ
レバ以テ物貨ヲ製産ス可ラズト云フハ未ダ以
テ通論トスルコトヲ得ザルナリ

夫レ人生ノ久シキ既ニ數千年ニ至レリ而シテ
其積蓄セシ所ノ貲財額大ニシテ價貴キ固ヨリ
美數ス可ラズ今人々ノ專有スル所ヲ除クモ猶
膳禮堂等其他公共ニ属スル大厦高殿ノ如ク及
テ溝渠道路鐵路橋梁典籍圖画彫像等ノ如キハ
其始メ之ヲ建設造作スル其費必シモ大ナリシ

ト虽今ヲ以テ之ヲ視レバ其抵値尙ニ倍獲スル
コトナラズ前人遺ス所ノ智巧勤勞及ビ貲財ニ
至テハ吾輩其恩惠ヲ蒙ル勝テ數フ可ザルナリ
故ニ吾輩モ亦斯幸福ヲ資クル者ヲ以テ後人ニ
譲ルニ唯損傷セズシテ之ヲ遺スヲ以テ足レリ
トス可ラス亦當ニ之ヲ補益増加シテ而シテ能
ク吾輩ノ義務ヲ盡シタリト謂フ可キ也

前人遺ス所ノ貲財等アリテ吾輩其恩惠ヲ被ル
優渥ハ則優渥ナリト虽猶更ニ馬ヨリ甚シキ者
アリ前人ノ經歷ト技工ト即チ是レナリ夫レ既

前人經歷スル所アリ又其技工アリ故ニ吾輩
尽ク彼資財等ヲ失フモ苟モ其經歷ト技工トニ
據テ以テ之ヲ作ラバ則能クス可ラザル者蓋シ
鮮ニ若夫レ前人ノ經歷技工ナキガ則僅ニ生命
ヲ保ツモ猶且難ニトス况ニヤ何ノ遑アリテ以
テ幸福ノ事ヲ講スルニ及バム乎抑支那人ノ如
キハ日ニ飢餓ニ迫ル者幾百万ニ及ブト云フ原註
ボルリシガム氏余ニ報告スル言ニ曰クタイピ
ンダノ乱支那人ノ死スル者千二百萬ニ下ラズ
飢餓ヲ以テ死スル者是レ民口ノ滋イニ由ル
少クモテ而シテ人カヲ省クノ術疎ニモテ效ア

ラザルノ致ス所多シトス歐洲ニ於テハ則然ラ
ガ機器創造日ニ新ニ月ニ奇ニシテ獨大不利顛
ヲ以テスルモ其氣機ノ力以テ六億人ニ當ルト
云フ夫レ亞細亞ニ於テハ勞作ノ廉ナル未ダ其
比アラズ而シテ大不利顛ハ則彼ト其市場ニ競
争シ賤價ヲ以テ其製品ヲ賣リ彼製産ヲ事トス
ル人ヲシテ其業ヲ失ハシメ終ニ或ハ之ヲシテ
飢テ死セシムルニ至ル是レ一ニ英國機器ノ力
ヲ藉ルニ由ル而已而シテ英國ノ此ノ如ク盛ナ
ルニ至リシハ其年所ヲ経ル未ダ五十年ノ久シ

キニ至ラズ余新英倫ノ貧人多ク支那綿布倍南
京ト称スルモノヲ衣タルヲ見シテ猶疇昔ノ如
シ然リ而シテ一旦英米ニ於テ藉力織機カ等ヲ
藉テ機杼ヲ創製ノ峯アルヤ支那ノ綿布製造頓
動スラ云フヲ創製ノ峯アルヤ支那ノ綿布製造頓
ニ其歴潰スル所トナリ今ニ至テハ則支那印度
ノ農夫此織機ノ製スル所ヲ以テ衣ト為ル者多
キニ居ル而シテ英國ノ棉花ヲ取ル印度ニ於テ
スルノ最モ多シ以テ僅ニ紡織ヲ施シ後夕之
印度ニ漸シ自ラ其綿花ヲ産セシ者ヲシテ之ヲ
衣セシム嗚呼印度ノ民ヲシテ之ヲ紡織セシメ

バ則一日工銀僅ニ六片子ヲ以テ足レリトス然
リ内シテ今喜望峯ヲ一周スルノ旅費及ヒ英國
製造ノ費用ヲ出シ加ルニ商賈ニ相賣埃スル
利ヲ得セシメ又棉花價金ノ息ヲ拂フト虽按ズ
印度人自ラ棉花ヲ生シ而シテ英人之ヲ買テ本
國ニ輸送シ紡織シテ再ヒ之ヲ印度ニ入テ賣ル
其間久シカシラズト為ス此猶抵當ナリ取テ人
ハ則其金ヲ典ル者ニ貸シ尚自製ノ物ヨリ賤價ヲ以
テ之ヲ買フ其賤價ヲ以テ之ヲ買フハ則好シト
虽其職業ハ則日ニ以テ衰頽シ由テ以テ生ヲ保
ツテ能ハザラントス余印度人ノ為メニ歎惜セ

ザルヲ得ザルナリ

余レ印度人ノ舊製ノ疎ニシテ効少キ手織機ニ
安ジ以テ西國賤價ノ製品ヲ拒マンノヲ望デ此
言ヲ出スニ非ス此ノ如キハ余モ亦欲セザル所
ナリ印度人英國ヨリ機関ヲ購求シテ之ヲ輸入
シ巧ニ之ヲ使スルノヲ習ヒ而シテ輸入製品ハ
其英國ヨリスルト其他ノ國ヨリスルトヲ論ズ
ルノナク其稅ヲ重クシ其價ヲシテ自國製品
ノ廉キヲシメズ以テ自ラ勉勵經驗シテ外國ト
拮抗スルニ至ルヲ待ツハ余ノ願ッ所ナリ噫余

ヲシテ印度ニ権カアラシメバ則余必ス此事ヲ
行フベシ然リ而シテ能ハズ惜ム可キナリ蓋シ
此事ヲ行フハ先ヅ我國人民ト印度人民トヲ利
シ而シテ推シテ之ヲ各地ノ勞作ニ及ボシ終ニ
天下蒼生ノ永福ヲ謀ル所以ナリ
我國當初專ラカヲ農ニ盡シ而シテ百工ニ避テ
少シモ作ス可ラザルノヲ論シ固ク信シテ疑ガ
ル者アリ以テラク農ハ業ノ貴重ナル者ニシテ
患害少ナク人ヲシテ柔懦ニ陥ラシムルノナシ
故ニ百姓ノ懿徳ヲ養ヒ自由ヲ保ツハ之ニ據ル

ニ如クナシト我人民ノ始メ居フトスル亞多蘭
海ニ沿ヒ及ヒ可航河水ノ之ニ注ク者ニ依リ而
シテ遷移セサリシ者此説ノ然ラシムル所タラ
ザルヲ知ル可ラズ其畢竟溝渠ヲ鑿リ鉄路ヲ築
キ四通八達以テ西地ノ廣キモ至ラザル所ナキ
ニ至ルハ則疑ヲ容レサル所ト雖穀物等凡ソ重
大ナル未製品ヲ以テ凡百ノ器具製品ヲ購ハン
トスルトキハ其量夥多ヲラザルヲ能ハズ而
テ其多量ノ穀物等ヲ以テ西地ヨリ歐洲ニ運セ
ントセバ其費銀多クシテ大抵其代銀四分ノ三

ヲ以テ之ニ充テザル可ラズ故ニ農民常ニ貧ニ
シテ欠債ヲ免ル、期ナカル可キナリ嗚呼我レ
器具製品ヲ取ル尽ク歐洲ニ於テシタリセバ
食ノ物料ヲ以テ歐洲ニ輸スモ其量常ニ足ラズ
シテ國家ノ窮乏必ズ既ニ極リタラシ復何ゾ今
日ノ景況ヲ見ルヲ得可ケン乎夫レ我民創始ノ
才アリテ而シテ氣力ニ優ナル固ヨリ疑ヲ容レ
ズト雖然レモ藁カケレバ以テ磚ヲ造ル能ハザ
ルハ猶イスライル人ノ埃及ニ囚タル時能ク造
ルヲ能ハザリシト何ゾ少シク異ナル者アラシ

ヤ往古イストライルノ極ム埃及ニ因タル埃及王之
其苦役ノ一ナリ蓋當時磚ヲ造ル未ダ之ヲ焼防
磚ヲ造ルハ以テ固クス故ニ藁ヲケレハ以テ
ザル人ニ映ヘルヲ嚴禁シ而シテ其磚ヲ造ラ
且ツ夫レ創製ノ大ニ著シキ者一人ニシテ能ク
之ヲ大成セシ者未ダ曾テ之レ有ラズ織工ナラ
ズシテ而シテ能ク織機ヲ創製シ或ハ之ヲ改良
セシ者モ亦未ダ之レ有ラザルナリ蓋シ機器ハ
大ニ功用アル者ハ大抵創製改良スルヲ數十回
ヲ經ザル者ナク而シテ其創製改良スル者モ大

抵亦之ヲ使用スル者ニ非ルハナシ嗚呼世界中
省力ノ術アル莫教ス可ラズト虽其重大ナル者
獨リ之ヲ養ヒ之ヲ喜ブノ國ニシテ而シテ能ク
之ヲ成セシノミ現今機器ノ我國創製改良スル
所ニ係ル者歐洲喜デ之ヲ用井代ルニ億兆ノ金
ヲ以テスト虽彼レ得テ舍ルヲ能ハザル者アリ
是レ亦我國勉テ製作ノ業ヲ盛ニスルニ因ルノ
ミ我國ヲシテ凡ク製作ニ係ル物品ハ尽ク之ヲ
歐洲ヨリ購求スルノ計ヲ守リ以テ今日ニ至ラ
シメバ豈復タ能ク此等ノ機器ヲ創製改良セシ

者アラシヤ

我國旧来製作スル所ノ物其價最モ廉ニシテ其品最モ好シ歐洲ト虽斧鉞等ノ及器ニ至テハ我

國ノ右ニ出ルヲ能ハズ原註コル子ルア始テルキ

リサ州ノ公使ノ職ヲ奉シテ英國ニ至リシ人ナ

然ル所製及器ヲ買ヒ以テ國ニ送リテ之ヲ賣ル

ル者一人ガモ十州カリシト用鋤歟ノ如キモ五十年以

前ヨリマスサチユセツト州ノ某家多ク之ヲ製

シ其品ノ好キ其價ノ賤ナル歐洲ノ及ブ所ニ非

ズ又コト子ル截製釘ハ本ト米國創製ニ係リ今ニ至ルマ

テ他國ノ能ク廉賤ヲ以テ製スルヲ我國ノ如ク

其製出ノ夥多ナル我國ノ如クナル者未ダ之レ

アラズコト子ル鍛製釘ノ如キモ多年辛苦ヲ経テ而シテ

機器ヲ以テ之ヲ製スルヲ發明セリ是ヲ以テ

推セバ此類ノ職業ニ於テハ我國先鞭ヲ着ル

此後ト虽亦望ム可キナリ余又聞ク螺旋大錐ハ

コン子クチコツト州ノ某創製スル所ニ係リ之

ヲ以テ木材ニ穴ヲ穿ツニ其功以前ニ倍シ其工

匠ニ益アル推測ス可ラズト虽專賣特許ヲ與ヘ

テ之ヲ保獲スルヲ無カリシト亦惜ムニ足レリ

其他^鉋 削機針縫器等ヨリ芟刈器具等ニ至ルマ
テ我國創製ニ係ル者甚ダ多シ而シテ其益スル
所獨リ我國ニ止ルノミニ非ズ亦文明世界中其
効徳ヲ被ラザルナシ且夫レ我國ニ於テ彈棉機
創製ノ萃アルハ是レ我國棉花ヲ產生シ而シテ
彈棉ノ器以テ無カル可ラザルニ由ル若シ夫レ
棉花產生スルハ無ケレバ則斯機創製ノ萃亦有
ルナキナリ其他ノ工術亦然リ苟モ發明創製
スルアルハ皆初ノ其工ヲ勉メ其術ヲ勤ムル者
アルニ由ラザルナシ若シ我國ヲシテ工術製作

ノ事ニ興カルハ無カラシメンカ則世ニ斯發明
創製アル果シテ何レノ時ヲ期ス可キ乎頃者ニ
シシルウワニヤ州ニ於テ大ニ發明スル所アリ
テ鑄鍊ノ炭素ヲ去リ之ヲシテ散楛ナラザルハ
鍛鍊ノ如クナラシムルニ由來ノ法ヲ以テセズ
勉テ簡約ヲ專ラニシ大ニ其費用ヲ減ズルノ術
ヲ得タリト聞ケリ後來製鍊ノ業大ニ革面スル
所アル可シ其他創始ノ才ヲ逞フシテ工術ヲ巧
ニシ以テ人カヲ省キ製出ラ多クスル事今將ニ
成ラントスル者勝テ教ヲ可ラズ夫レ昔日專ラ

外國ニ仰キニ所ノ物品ニシテ爾後保護ニ憑テ
我自ラ之ヲ製産シ以テ我需要ニ供スルニ足リ
者甚タ多シ而シテ其價ヲ論ズルニ昔日ヨリ廉
ナラザル者ナシ夫レ然リ故ニ既往ヲ以テ將來
ヲ推スニ固ヨリ此ニ止テ而シテ足レリトス可
ラス工術ヲ真ニ製作ヲ盛ニスル其事窮極スル
所ナシ陶器ノ如キハ猶輸入スル所多キニ居ル
ト虽亦我國ニ於テ更ニ其製作ヲ巧ニス可ラザ
ルニ非ルナリ生絲絹帛ノ如キモ今首トシテ支
那ノ蠶蟲ヲ頼ニ法國ノ機杼ニ依ルト虽カリフ

ヲルニヤ州ノ氣候ヲ驗スルニ其養蠶ニ適スル
一歐羅巴亞細亞モ亦及バザル者アリ故ニ我國
ニ於テ蠶絲絹帛ヲ産製スル一難キニ非ルナリ
彼ノ生絲ノ傷損ニテ麻屑ノ如キ者華地支那ヲ
指スノ人其智巧勤勞ヲ尽スト虽如何トモ為ス
可ラズ之ヲ視ル一塵芥ノ如クスト虽我國已ニ
之ヲ輸入シテ而シテ之ガ為メニ故ラニ機器ヲ
作り以テ紡績ヲ施ス者アリ嗚呼工術製作ヲ鼓
動シテ之ヲ保持スル今ノ如クシテ息マズンバ
其愈真テ而愈盛ナル何ゾ窮ラム哉是レ獨リ我

國ノ職業ヲ擴張シテ之ヲシテ衆多ナラシムル
ノミナラズ乃チ天下萬生ノ職業ヲ鼓舞シテ愈
新ナラシムル所以ナリ其利其益豈少々ナリト
謂ハム哉

心智ニ係ル物ヲ製スル人ノ特權ヲ定解スルハ
之ヲ有形有實ノ物ヲ製スル者ノ權利ニ比スレ
バ則稍確認シ難キ者アリ然リト虽有形物ヲ製
スル人ト其權利少シモ異ナルヲナク亦以テ之
ヲ實トシ之ヲ益アルトシ之ヲ保持ス可シト為
ス請フ一例ヲ舉テ之ヲ詳ニセシ爰ニ兄弟四人

アリ其父ノ産ヲ分受スルヲ等一ニシテ其能力
モ亦均同而シテ其勤勞ニ堪ヘ及ビ儉約節制ス
ルモ亦皆異ナラズ以テ獨立シテ各其業ヲ營ム
後二十年ヲ經テ其得ル所ヲ見ルニ甲ハ力ヲ農
事ニ尽シ田地アリテ嘉禾ヲ生シ家屋アリテ居
常便宜家蓄ヲ養テ群ヲ成シ其他書籍家什器具
等足ラサルヲナク凡ソ以テ獨立ヲ保テ幸福ヲ
享ルノ具備ハラザルナシ乙ハ力ヲ汽車機關ヲ
造作スルノ事ニ專ラシ其富裕安穩ナルヲ甲
ト異ナルヲナク丙ハ機械ノ學ヲ修メ黽勉舎ム

「ナク」
「醒忍」
「不抜」
「百折」
「不撓」
「終」
「以テ」
「新」
「汽機」
「ヲ」
「發明」
「シ」
「之」
「ヲ」
「用」
「テ」
「以テ」
「汽車」
「汽船」
「ヲ」
「運動」
「スル」
「ニ」
「大」
「ニ」
「力」
「ヲ」
「減」
「省」
「シ」
「タリ」
「丁」
「ハ」
「心」
「ヲ」
「文藝」
「ニ」
「歸」
「シ」
「詩詞」
「雅」
「致」
「アリ」
「テ」
「文章」
「佳趣」
「アリ」
「以テ」
「一」
「部」
「ノ」
「書」
「ヲ」
「撰」
「ミ」
「而」
「シ」
「テ」
「世」
「人」
「喜」
「デ」
「之」
「ヲ」
「讀」
「ミ」
「之」
「ヲ」
「誦」
「シ」
「因」
「テ」
「以テ」
「知識」
「ヲ」
「廣」
「ムル」
「者」
「甚」
「タ」
「衆」
「シ」
「ト」
「云」
「フ」
「今」
「世」
「人」
「丙」
「丁」
「ノ」
「製」
「セ」
「シ」
「所」
「ニ」
「由」
「テ」
「一」
「ハ」
「以テ」
「利益」
「ヲ」
「得」
「一」
「ハ」
「以テ」
「心神」
「ヲ」
「樂」
「マ」
「シ」
「ム」
「故」
「ニ」
「世」
「人」
「之」
「ガ」
「為」
「メ」
「ニ」
「抵」
「値」
「ヲ」
「出」
「サ」
「レ」
「ト」
「欲」
「ス」
「ル」
「ハ」
「猶」
「ホ」
「甲」
「乙」
「ノ」
「製」
「出」
「物」
「ノ」
「為」
「メ」
「ニ」
「抵」
「値」
「ヲ」
「出」
「サ」
「レ」
「ト」
「欲」
「ス」
「ル」
「ガ」
「如」
「ク」
「ニ」
「シ」
「テ」
「而」
「シ」
「テ」
「丙」
「丁」
「ノ」
「具」
「抵」

値ヲ受ルハ甲乙ノ具抵値ヲ受ルト復何ゾ異ナ
ラムヤ其理其實固ヨリ一ナリテイヤルス氏ノ
言ニ曰ク所有権理ノ根據復覆ス可ラザル者ハ
是レ勞作ナリト是言ヲ以テ之ヲ視レバ則イニ
ヤス、ホウ、氏針縫機ヲ創針縫機ニ於ケルハ猶アリ
ルフレッド、テン子ソ、氏也ゼ、グリンス、マウド、イ
ン、メモリヤン、ゼ、ロトス、イトルス、皆書名アル
撰述ニ係ルニ於ルガ如ク其所有権利ニ至テハ
並ニ相同クシテ之ヲ尋常一般ノ所有権利ニ照
シテ少シモ欽クル所ヲ見ズ蓋シ農工ノ産製ス

ル所ハ皆土地ト共ニ存スル所ノ物ニシテ本ト
人間公有ト称シテ可ナル者ニ由テ或ハ其形ヲ
寢ニ或ハ其宜ニ從テ之ヲ合ハスノミ而シテ彼
發明創造スル者ト詩人文士トハ其無キ所ニ就
テ之ヲ作り或ハ混沌辨ズ可ラザル者ヲシテ緒
ニ就テ明白ナラシム其人間永富ニ加ル所尋常
農工ニ比スルニ而モ更ニ重シズ可キ者アリテ
恰モ原造スルガ如シ按ズルニ宇宙萬物ノ原造
シテ人得テ原造スル能ハ然レハ詩人文士ト
發明創造者ト原造ノ如キハ腦精ヲ鍊リ思想ヲ凝ラト
シテ原造スルハ如キハ物ト云フ故ニ其製作ノ物ニ
故ニ以テ原造スルハ如キハ物ト云フ故ニ其製作ノ物ニ

於テ所有權利ヲ得ルト甲乙ノ汽車穀物ニ於テ
所有權利ヲ得ルト少ニ異ナル者ナキナリ
然リ而シテ世ノ所有權利ヲ論ズル者或ハ其權
利ヲ以テ唯其實ニ製出スル所ノ物ニ附スルノ
ミニシテ人汽機ヲ發明創造スルアレハ其權利
ヲ以テ其實ニ製スル所ノ汽機ニ止ルト為シ著
述者詩文ヲ作ルアレバ則其權利ヲ以テ其草稿
ニ止ルト為ス者アリ余ヲ以テ是説ヲ考ルニ其
理ニ悖ルヲ明白ニシテ復喋々ヲ須ヒザルナリ
夫レ丙ノ二十年間黽勉休マザル所以豈唯其自

ナニ雖令各其國ヲ異ニシテ遠ク相懸絶スル者
ト虽其權利ニ至テハ亦少シモ異ナル所ナキ也
勞作ノ權利ヲ保持シ而シテ之ヲ防禦スルハ政
府當ニ担任ス可キ所ナリ今若シ人アリ之ヲ是
トスルト虽萬國通行稿權ノ議ヲ疑ハバ余深ク
之ヲ歎ゼザルヲ得ザルナリ蓋シ信義ヲ以テ論
スレバ則余ハ萬國通行稿權ヲ以テ外國ノ著述
者ニ附與セシト欲スルナリ苟モ之レ無シ故ニ
其著作スル所唯紙價ト印行ノ費銀トニ依テ價
ヲ定メ以テ之ヲ賣ル我國比々トシテ之レ有リ

而シテ我國ノ民寡識ニシテ智慮ナキ者唯其價
ノ廉ナルヲ以テ購テ之ヲ讀ム者甚ダ衆多ニシ
テ而シテ國人ノ説ヲ立テ論ヲ作ル多クハ外人
ノ力ヲ藉リ而シテ外人ノ我國ニ効アル我國著
名ノ著述者ト虽亦或ハ及ハザル者アリ是レ一
ハ我國人ノ著書ハ之ヲ讀ム者少ナカラシメ一
ハ外國人ノ著書ハ之ヲ讀ム者多カテシメテ却
テ外國著者ヲシテ其報酬ヲ得ザラシムル者ナ
リ其措置豈公道ヲ得タリト謂フ可ケン哉但恐
ル世人或ハ余ヲ以テ外人ノ著書ヲ讀ム者衆多

ナルヲ痛ムト為シカ然レモ余敢テ其衆多ナル
ヲ痛ムニ非ス余固ヨリ外人ノ著書多ク我人民
ノ悦ブ所トナルヲ知ル何ゾ唯其之ヲ讀ム者多
キヲ之レ痛マン乎余唯執政者ノ思ヲ此大欽典
ニ注キ法章ヲ立テ、之ヲ制定セザルヲ恨ムノ
ミ知ラスヤウラルトスコト晩年ニ至リ大ニ
資財ニ窮乏ニ身遂ニ破産ノ人ト為リ死ニテ僅
ニ欠債ヲ免レシヲ吁嗟當時我國ノ其書ヲ讀ム
者ヲミテ每卷一セシトヲ出シテ之ヲ致サシメ
バ則以テ其破産ヲ救フニ足ラン苟モ然ラバ則

馬ゾ其天年ヲ延テ其著ス所愈出デ、愈妙ナラ
ザリシヲ知ラン哉然リ而レテ我ニ倂ラシテ唯其
當ヲ得セシムルモ是レ為サズ余レ歎惜ニ勝ヘ
ザルナリ

近來亦創製特許ノ法ヲ廢スルノ議ヲ為ス者アリ
テ大ニ勢力ヲ得タリ議者亦凡百ノ所有權利
ヲ廢セシト欲スル乎苟モ然ラズレバ則余亦之
ニ左袒スルヲ能ハズ夫レ我國果シテ創製者ヲ
保護スルヲ辭スルカ則亦土地ヲ有スル者証
券ヲ有スル者等ヨリ商賈銀行等ニ至ルマデニ

向ヒ汝等自ラ其身ヲ守ル可シ汝等自ラ其所有
ヲ防ク可シト言ハザルヲ得ザルナリ抑我國ノ
民其始歐洲君主ノ允許ヲ得テ以テ荒蕪ノ地ヲ
有ス其權利固ヨリイリイウツト子一氏ノ彈棉
機ニ於ル權利及ビダゲリ氏ノ寫真術ニ於ケル
權利ト少シモ異ナルナリ然リ而シテ今創製特
許ヲ廢シ以テ此等ノ權利ヲ破ラレトセバ則百
般權利一モ確保ス可キ者ナキナリ
或ハ之ヲ難シテ曰ク然ラバ則何ゾ創製特許著
書稿權ヲシテ特立無窮ナラシメザルト余將ニ

之ニ答テ曰ハントス大凡ソ所有權利ナル者ハ
特立無窮ナル者ニ非ルナリ假令一バ足下昨日
政府ヨリ購得シタル土地ト虽明日或ハ之ヲ公
路ト為シ或ハ鐵路ノ通ズル所ト為サバ爾ヲ得
ザルナリ其土地ヲ足下ヨリ取ルヲ得可シ蓋
シ所有權利ハ一國共享ノ幸福ニ從テ持ス可キ
者ナリ故ニ人家アリト虽其地ヲ以テ或ハ港口
ト為シ或ハ以テ禦敵ノ地ト為サバ爾ヲ得ザル
ナリ其家ヲ毀テ其家ヲ火ス皆政府ノ欲スルマ
ニス可キナリ奚ゾ曾テ特立無窮ノ所有權利

アラレ哉但余ノ主張スル所ハ則法章ノ心智ニ
係ル所有ヲ認ムル猶他ノ所有ノ如クニモテ政
府之ヲ保護シ之ヲ貴重スル亦百般所有ノ盜奪
ニ非ズモテ宜シク智慧善良ナル人ノ崇敬保持
ヲ受ク可キ者ヲ保護貴重スルト一般ナラン
ヲ欲スルナリ

著述者ニ稿權ヲ與ヘテ其著書ヲ用ル者ヲモテ
其勤勞ノ補償ヲ出サシムルノ法已ニ具ハレリ
獨リ外國ノ著書ニ至テハ則此法ノ保護スル所
ト為ラス故ニ政府外國著者ニ向ヒ左ノ如ク言

フハ則適當ニモテ理アリト云フ可キナリ曰ク
我國公有ノ地三十六分ノ一ヲ以テ之ヲ人民教
育ノ資ト為シ各州多クハ巨萬ノ金額ヲ出シテ
以テ其業ヲ助ケモヨリ以來我人ノ民才讀書ニ堪
ル者愈益多クモテ而シテ書籍ノ鬻賣愈益夥ニ
故ニ書價ニ於テ別ニ百分ノ幾箇ヲ加フ請フ足
下等之ヲ書價ニ徵收シ以テ稿權ニ充テヨト蓋
シ聯邦憲法ニ曰ク「私有物ハ應當ノ報酬ヲ與ヘ
ズニバ取テ之ヲ公用ニ供ス可ラス」ト故ニ今政
府ヨリ外國著者ニ向テ是言ヲ出スハ則能ク憲

法ノ旨ニ合フト謂フ可クシテ亦以テ公益ト私
権トヲミ互ニ抵觸スルヲナカラシムルト為ス
ナリ嗚呼此ノ如クニバ則我國基督教ヲ奉ズル國
ノ中ニ就テ愈聲譽ヲ揚ゲ他ノ信任ヲ受ルヤ復
疑フ可ラザルナリ

